

千曲市人口ビジョン



平成 28 年 2 月 初版
長野県千曲市

目次

第1章 はじめに	1
1. 人口ビジョンの位置付け	1
(1) 背景と目的	1
(2) 千曲市人口ビジョンの位置付け	2
2. 対象期間	2
第2章 人口に関する分析	3
1. 人口推移と構造	3
(1) 総人口および世帯数の推移	3
(2) 人口構成	3
2. 人口動態	4
(1) 自然動態	4
(2) 社会動態	5
第3章 人口構造と産業構造	8
1. 人口構造	8
(1) 年代別就業率	8
(2) 就業率と婚姻の関係	8
(3) 完全失業率と婚姻の関係	9
2. 産業構造	9
(1) 産業別人口	9
(2) 産業と性別	10
第4章 人口の将来推計	11
1. 社人研による将来人口の推計	11
(1) 対策がなされなかった場合の千曲市の将来人口	11
(2) 人口減少の要因	12
2. 人口の減少が地域の将来に与える影響の考察	13
(1) 労働力人口の減少	13
(2) 小中学校の学級数の減少	14
(3) 民間サービス施設の撤退	17
(4) 財政規模の縮小	17
第5章 千曲市人口の長期展望	18
1. 千曲市の人口の長期目標	18
2. 自然増における目標	18
(1) 合計特殊出生率の向上が人口に与える影響	18
(2) 出生率上昇における目標	19
3. 自然増+社会増による目標人口	20
4. 目標人口を達成するために目指すべき方向性	21
〔参考〕アンケート調査結果	23
1. 市民アンケート調査	23
(1) 調査の概要	23
(2) 調査結果	23
2. 高校生アンケート	28
(1) 調査の概要	28
(2) 調査結果	28
3. 千曲市への愛着度	32

第1章 はじめに

1. 人口ビジョンの位置付け

(1) 背景と目的

我が国は、人口減少社会に突入した。国は、人口減少社会に対応するため、「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、国としての考え方と、地方に求めることを示している。平成26年12月には、日本の現状と将来の状況を示し、これから目指すべき方向を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を公表した。

まち・ひと・しごと創生長期ビジョンは、我が国の人口減少について次のように記している。

○国のまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」

日本は「人口減少時代」に突入している。

人口減少は、「静かなる危機」と呼ばれるように、日々の生活においては実感しづらい。

しかし、このまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。

「どうにかなるのではないか」というのは、根拠なき楽観論であると言わざるを得ない。

この危機的な状況を眼前にして、我々はただ立ちすくんでいるわけにはいかない。

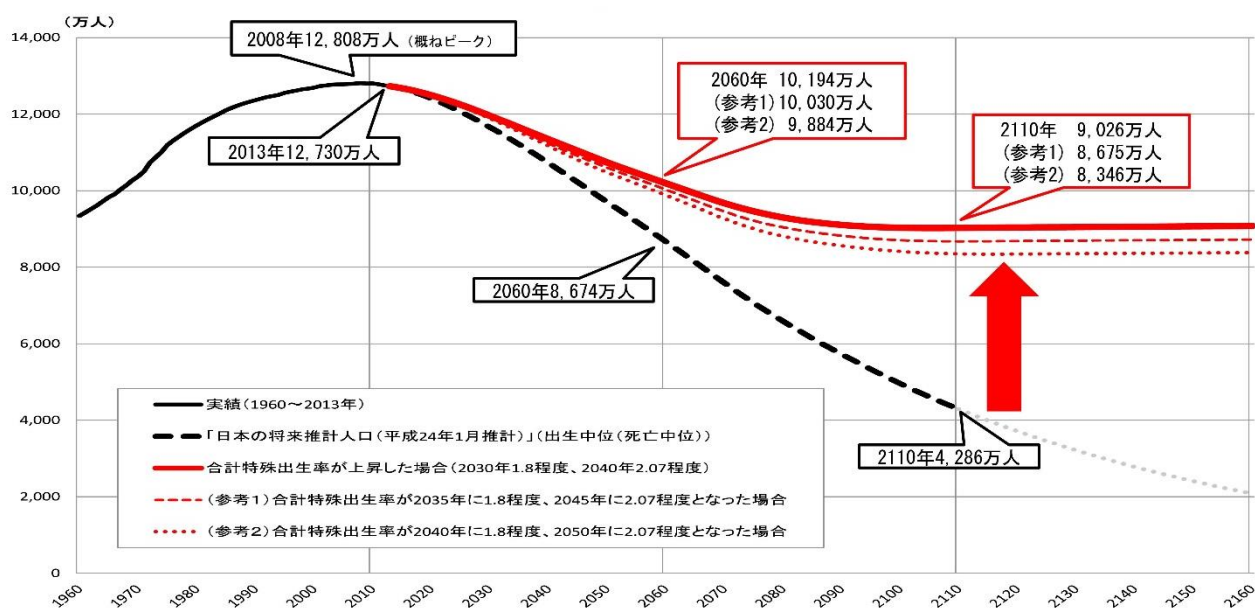
厳しい現実を正面から受け止め、断固たる姿勢で立ち向かわなければならない。そのためには、まず国民に対して人口の現状と将来の姿について正確な情報を提供し、認識の共有を目指していくことが出発点となる。

政府版まち・ひと・しごと創生長期ビジョン「Ⅰ. 人口問題に対する基本認識」から一部抜粋

国の長期ビジョンでは、「東京一極集中の是正」、「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」、「地域特性に即した地域課題の解決」という3つの基本視点に基づき、出生率を1.8程度まで向上することや、平成72（2060）年に1億人程度の人口を確保すること、それにより実質GDP成長率が1.5～2%に維持されることなどを目指すべき方向として打ち出している。

地方自治体には、国が示したまち・ひと・しごと創生長期ビジョン等に基づき、地域の状況を見据え、今後どのように対応していくかを検討し、それを地方版人口ビジョンとして取りまとめることが、努力義務として求められている。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



- （注1） 実績は、総務省統計局「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。
- （注2） 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

出典：内閣府 「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」

（2）千曲市人口ビジョンの位置付け

千曲市人口ビジョンは、このような国の動きを受け、千曲市における人口の現状を分析し、人口に対する住民の認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示することを目的として策定する。

人口ビジョンの策定は、国はもとより、長野県においても行われている。千曲市人口ビジョンは、これら国・県のビジョンに示された将来の方向性や目標人口などを踏まえて策定する。

また、本市における最上位の計画である「千曲市総合計画」に示されている政策との整合を図りながら策定する。

2. 対象期間

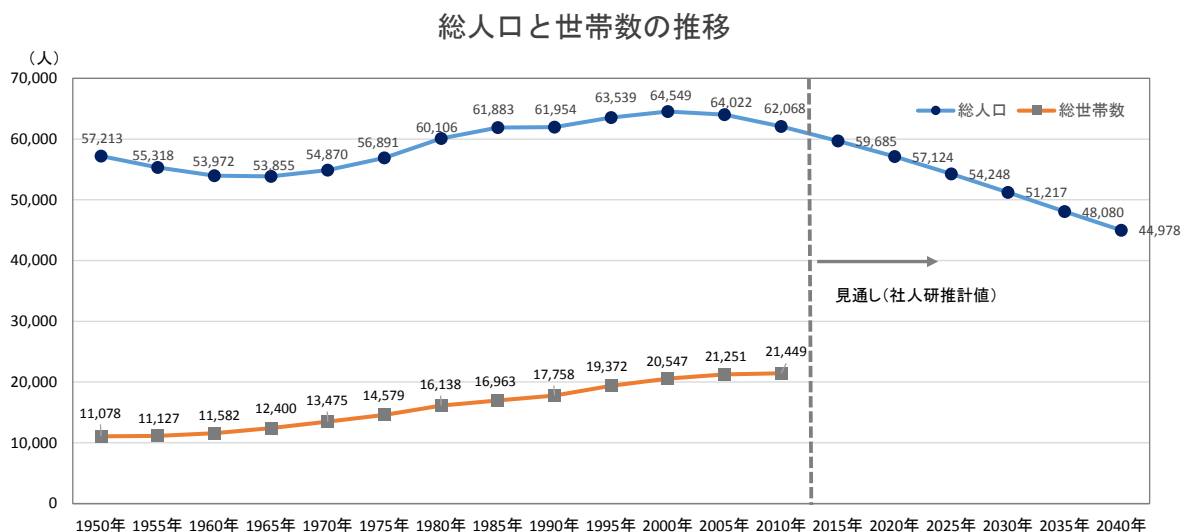
人口ビジョンの対象期間は、現在から平成52（2040）年までとする。

第2章 人口に関する分析

1. 人口推移と構造

(1) 総人口および世帯数の推移

本市の総人口は、平成 12（2000）年の 64,549 人をピークに減少しはじめ、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の推計によると、引き続き人口が減少し、平成 52（2040）年には 44,978 人になると推計されている。一方、総世帯数は昭和 25（1950）年以降、増加が続いている。このことから 1 世帯あたりの構成人数が減少し、核家族化が進んでいることがわかる。



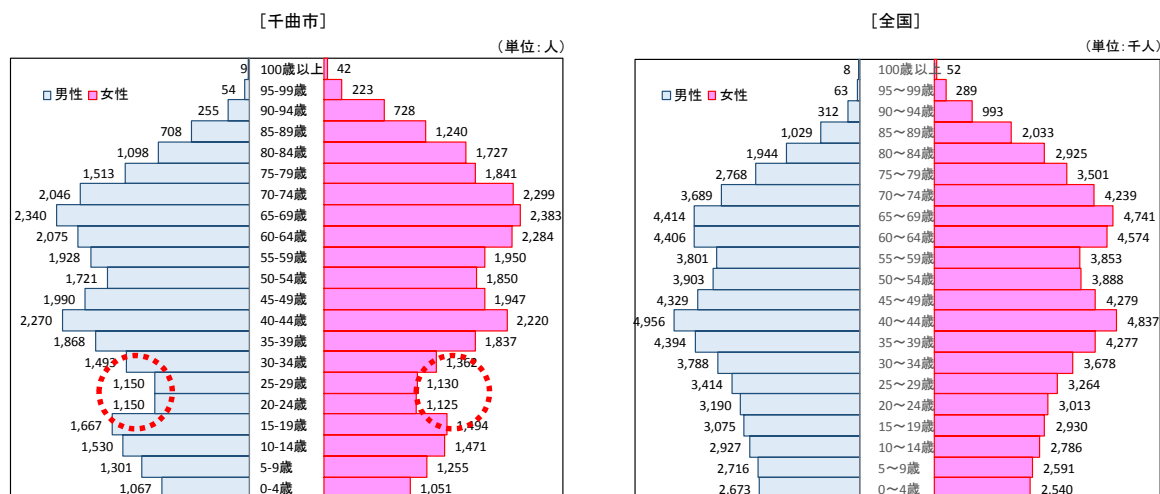
出典：2010 年まで国勢調査（2005 年までは 2009 年 10 月 1 日の境域による）

国立社会保障・人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口』2013 年 3 月をベースに再計算

(2) 人口構成

本市と全国の人口ピラミッドを比較すると、本市は 20～34 歳が大きく凹んでいる。このことから、若年層の他市町村への流出が多いことがうかがえる。

千曲市と全国の人口ピラミッド



出典：長野県毎月人口異動調査（2014 年 10 月 1 日現在）

総務省 人口推計 全国：年齢（5 歳階級）、男女別人口（2014 年 10 月 1 日現在）

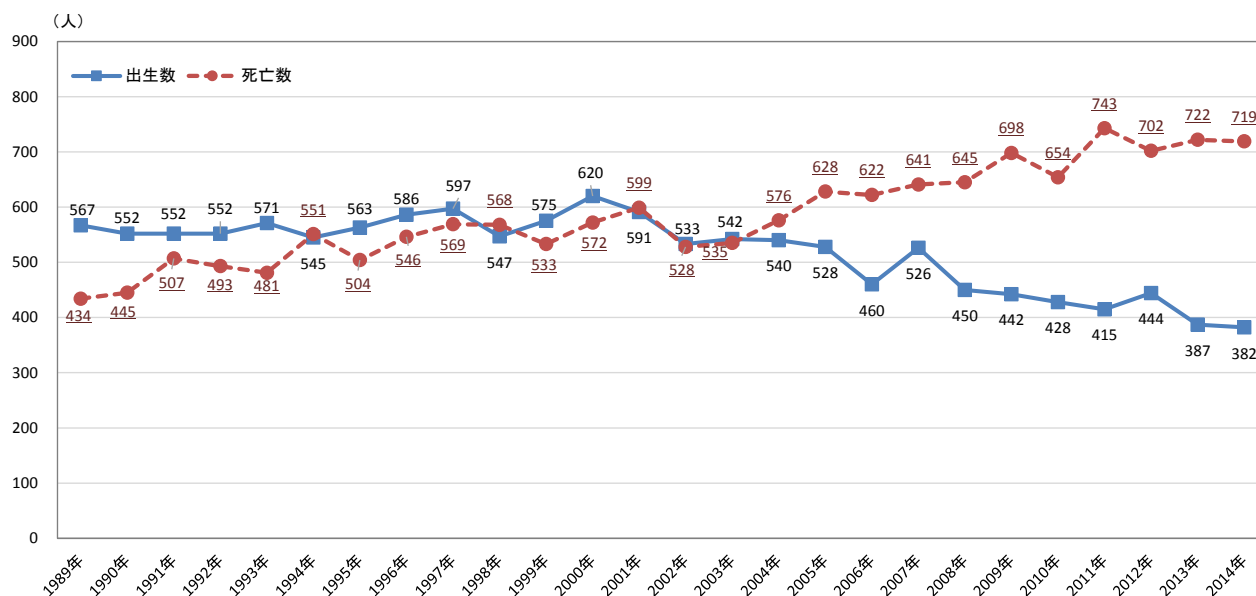
2. 人口動態

(1) 自然動態

1) 出生数と死亡数

平成 14 (2002) 年までは、出生数も死亡数も大きな変化はなく推移していたが、平成 14 (2002) 年以降、死亡数が増加しはじめ、出生数は減少に転じている。

出生数と死亡数の推移

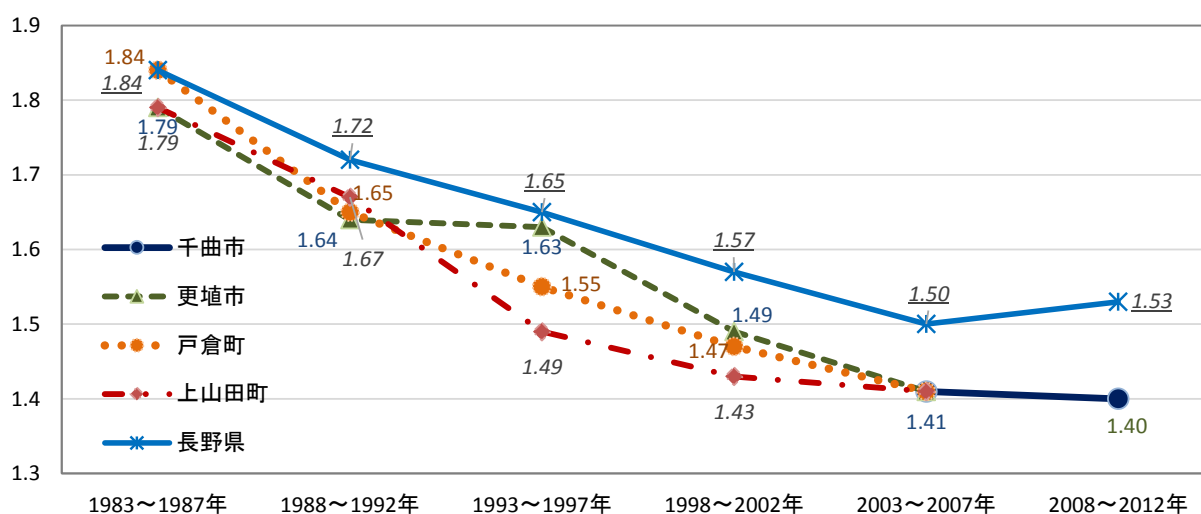


出典：長野県毎月人口異動調査 市町村別異動状況
※2003年までは更埴市、戸倉町、上山田町の合算値

2) 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率は、平成 15 (2003) 年の合併以前はどの市町も県の水準を下回っていた。合併以降も上昇することなく、1.4 程度と依然県の水準を下回っている。

合計特殊出生率の推移



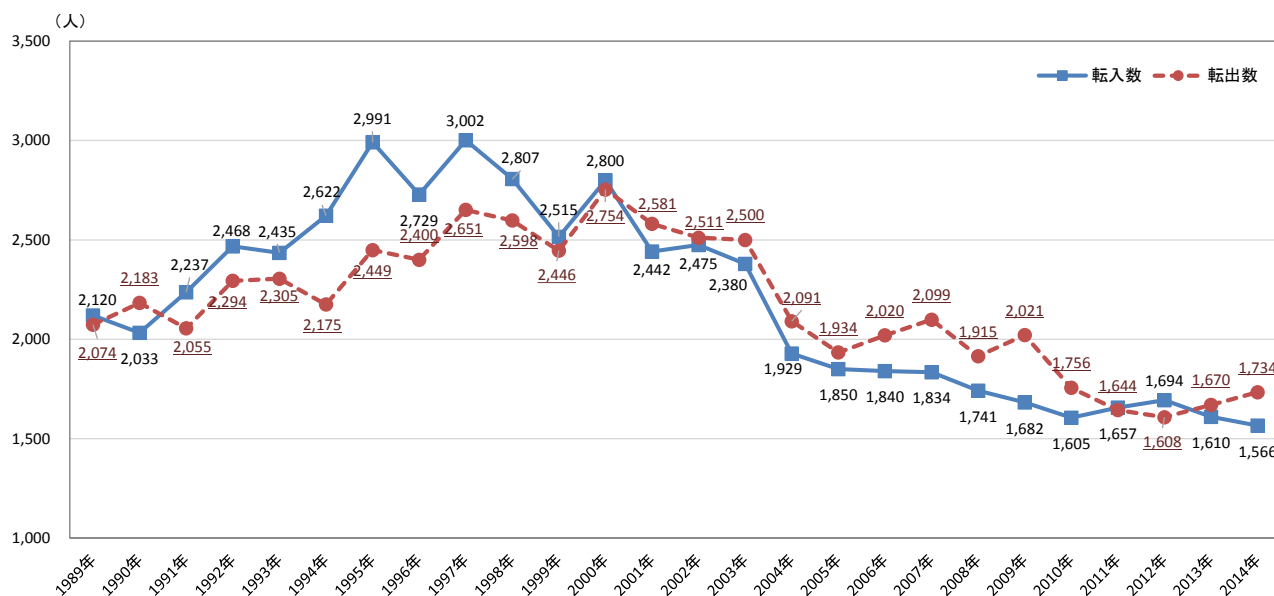
出典：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）

(2) 社会動態

1) 転入と転出

社会増減の状況をみると、1990年代から2000年にかけては転入数が上回っていたが、その後は転出数がやや上回りながら推移している。

転入者数と転出者数の推移

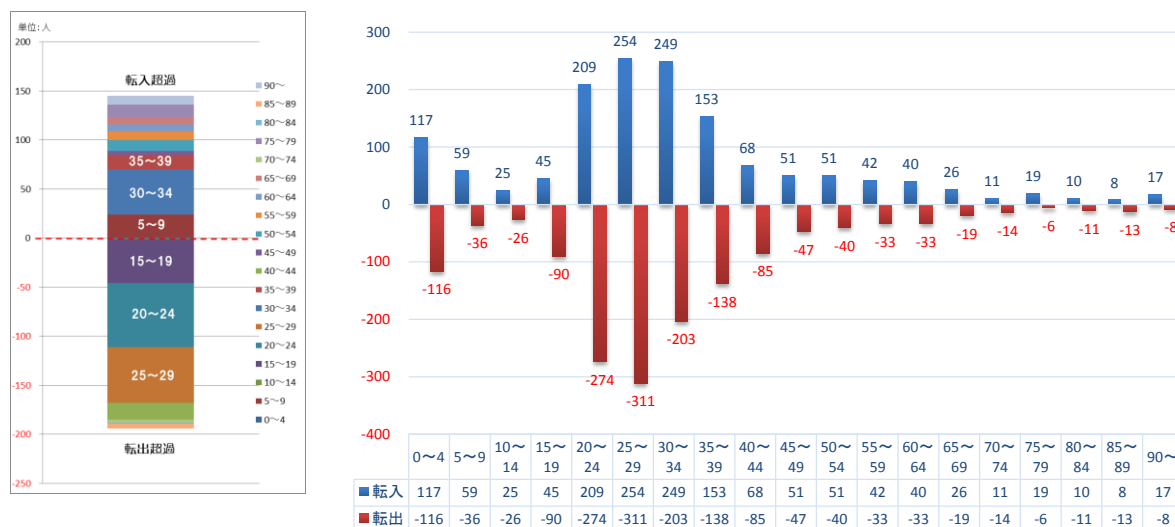


出典：長野県毎月人口異動調査 市町村別異動状況
※2003年までは更埴市、戸倉町、上山田町の合算値

2) 年齢階級別社会移動

年齢階級別に社会移動をみると、15～29歳の層では転出超過で、30～39歳の層では転入超過となっている。

年齢階級別・社会移動の状況（2013年）

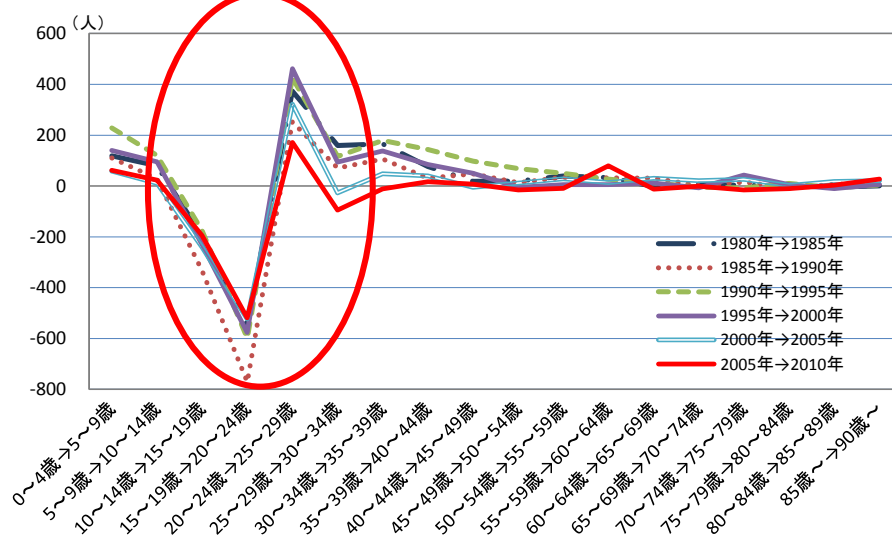


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

3) 年齢階級別社会移動の推移

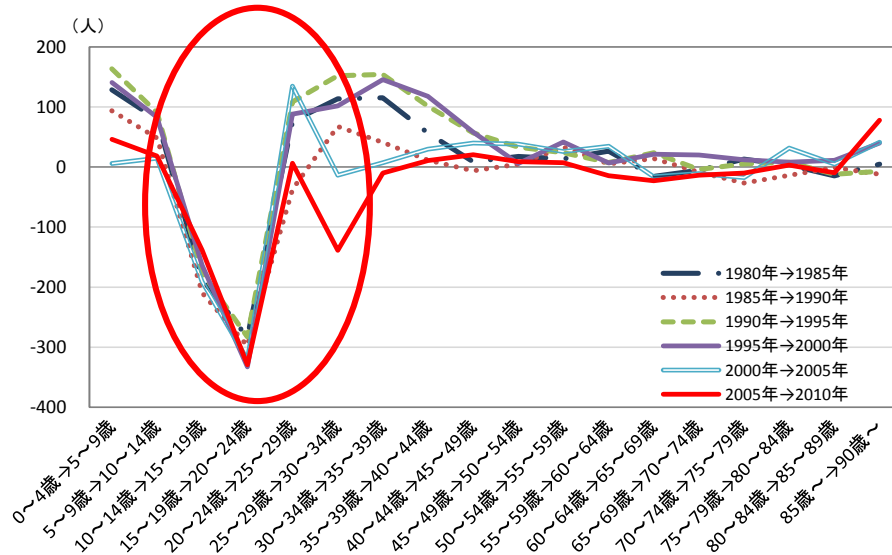
昭和 55（1980）年からの社会移動の推移をみると、過去 30 年の傾向として、進学などで 10 代後半から 20 代前半にかけて転出者が大きく増加し、20 代後半で転入者が増加する傾向がある。

男性の社会移動の推移（1980～2010 年）



出典：内閣府提供資料より作成

女性の社会移動の推移（1980～2010 年）



出典：内閣府提供資料より作成

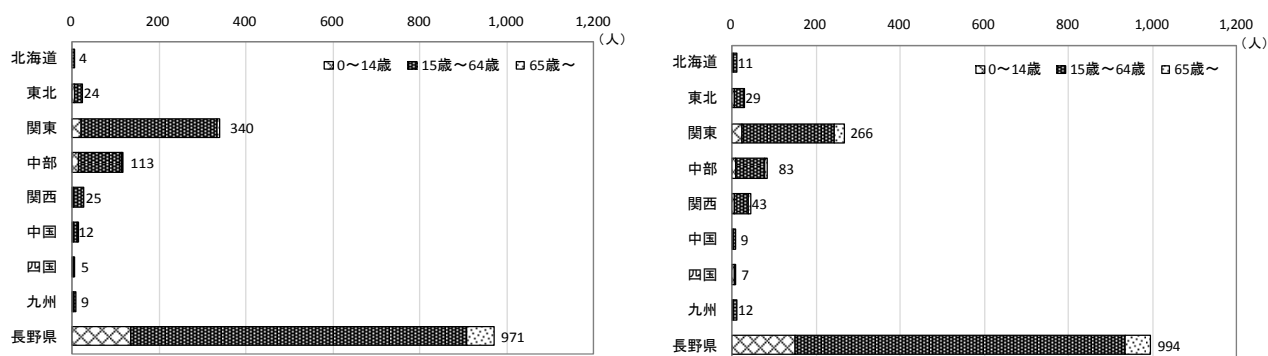
4) 転出先・転入元

平成 25（2013）年の転出先、転入元ともに長野県内がもっとも多くなっている。

転出先では、長野県に次いで、東京都、神奈川県といった関東圏、中部圏が多い。長野県内では長野市、上田市、坂城町といった近隣の市町が半数以上を占めている。

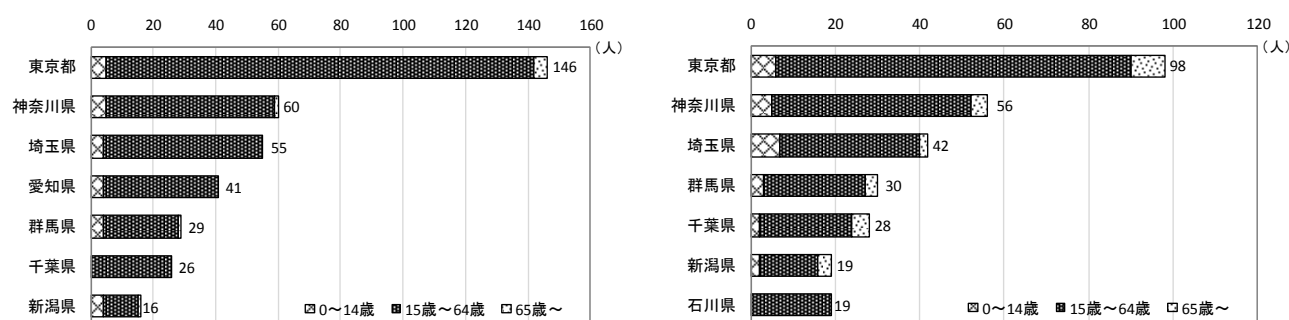
転入元でも長野県に次いで東京都、神奈川県など関東圏から転入している。長野県内では、転出先と同様に長野市、上田市といった近隣の市町が半数以上を占めている。

転出先(左)・転入元(右)（全国 8 ブロック・長野県 2013 年）



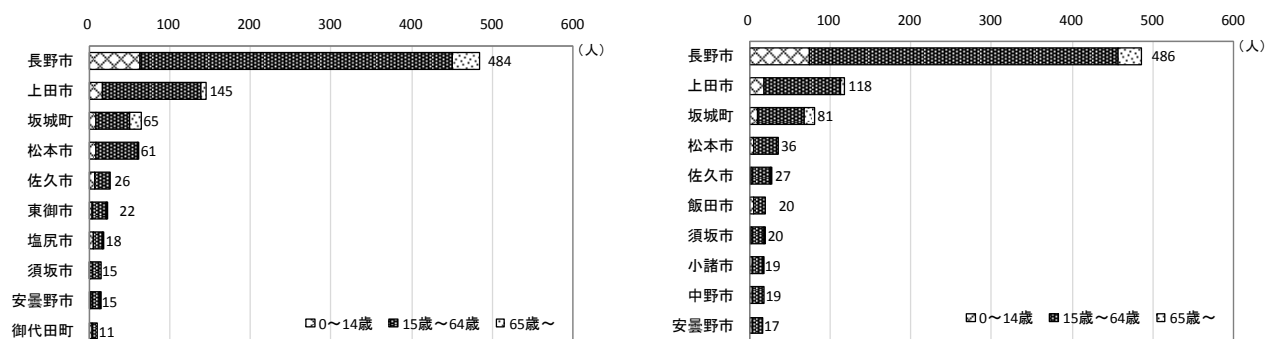
出典：内閣府提供資料より作成

転出先(左)・転入元(右)（長野県を除く上位都道府県 2013 年）



出典：内閣府提供資料より作成

転出先(左)・転入元(右)（長野県内上位市町村 2013 年）



出典：内閣府提供資料より作成

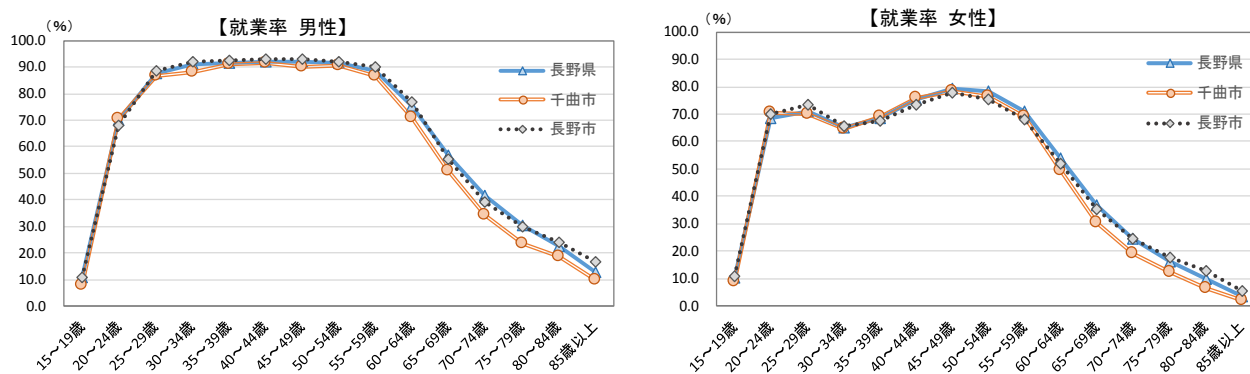
第3章 人口構造と産業構造

1. 人口構造

(1) 年代別就業率

年代別の就業率は長野県、長野市と大まかな傾向は変わらないが、高齢者における就業率がやや低い傾向にある。

年代別就業率

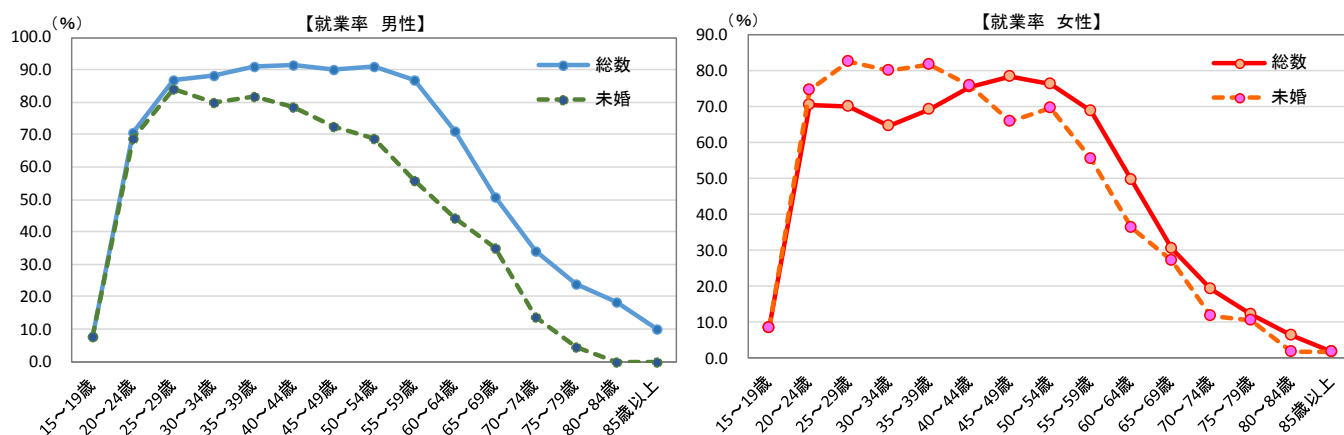


就業率：15歳以上の人口の中で、実際に働いている人の割合。就業率=就業者数÷15歳以上人口

(2) 就業率と婚姻の関係

就業率と婚姻の関係をみると、男性の場合は、未婚男性の就業率が低い。女性の場合は、20～30代で未婚女性の就業率が高くなっている。

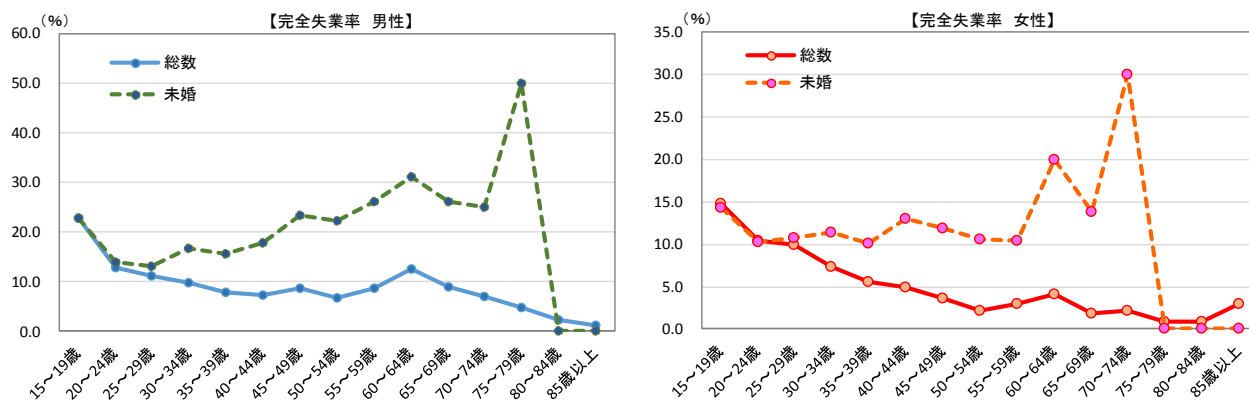
年代別就業率と婚姻の関係



(3) 完全失業率と婚姻の関係

完全失業率と婚姻の関係をみると、男女ともに未婚者の完全失業率が高く、失業状態が婚姻の妨げになっていることが推測される。

完全失業率と婚姻の関係



出典：2010年 国勢調査

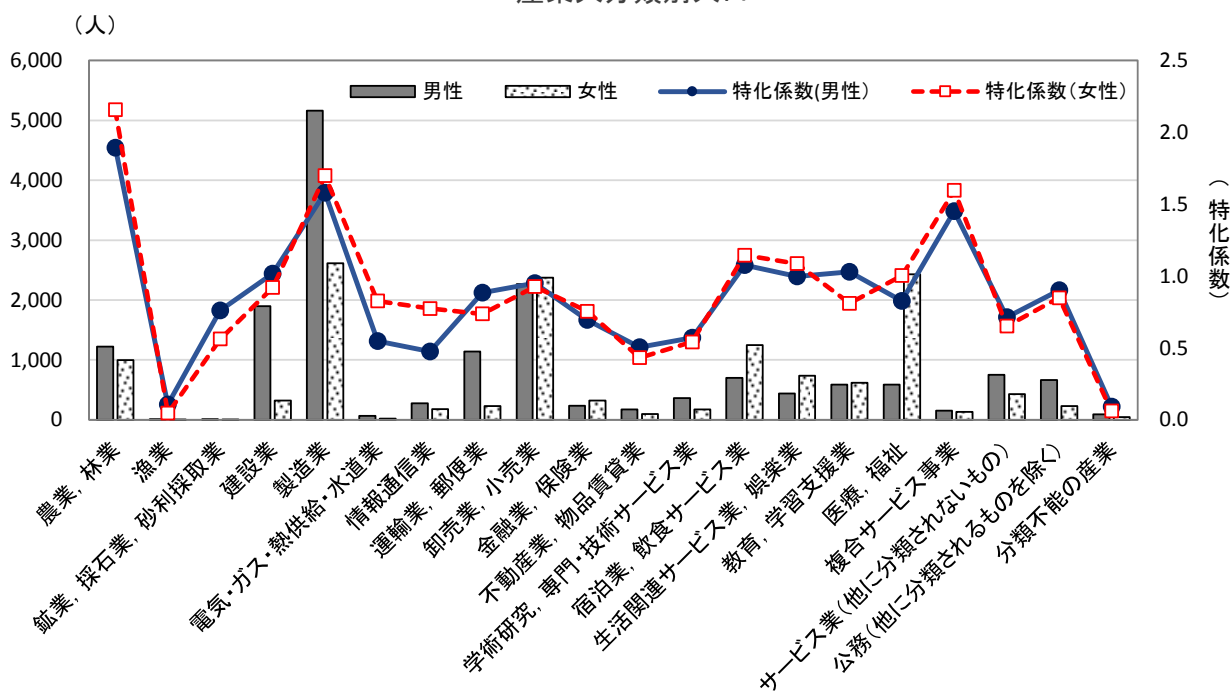
完全失業率：完全失業者数を労働力人口で割ったもの。完全失業率=完全失業者数÷労働力人口

2. 産業構造

(1) 産業別人口

日本標準産業分類大分類別の人口をみると、「製造業」で男女ともに従業者数が多く、特化係数も高い。その他の産業では、「農業、林業」「複合サービス事業」の特化係数が男女ともに大きくなっている。

産業大分類別人口



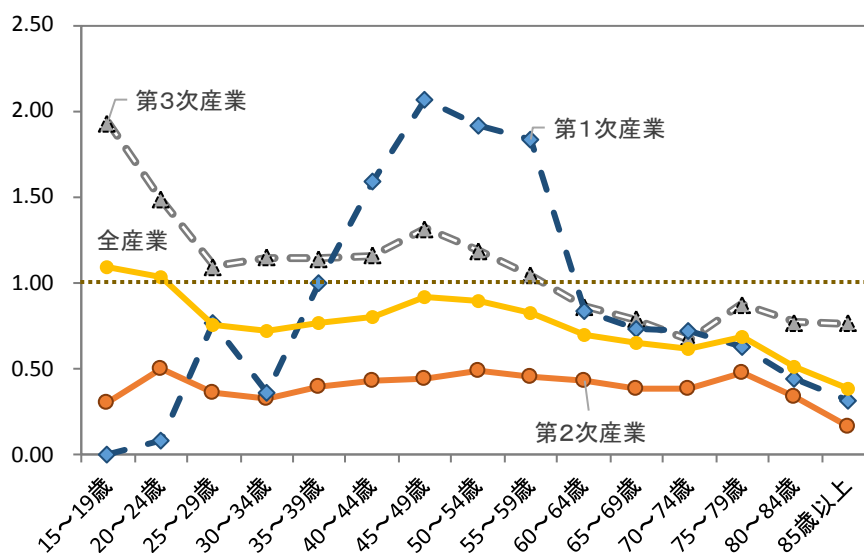
出典：2010年 国勢調査

(2) 産業と性別

1) 各産業における女性比率

第1次産業における女性比率が40代、50代で大きく伸びている。第2次産業は全年代を通じて女性比率が低く、女性労働力を吸収するに至っていない。第3次産業では10代、20代の女性比率が高い。

各産業における女性比率

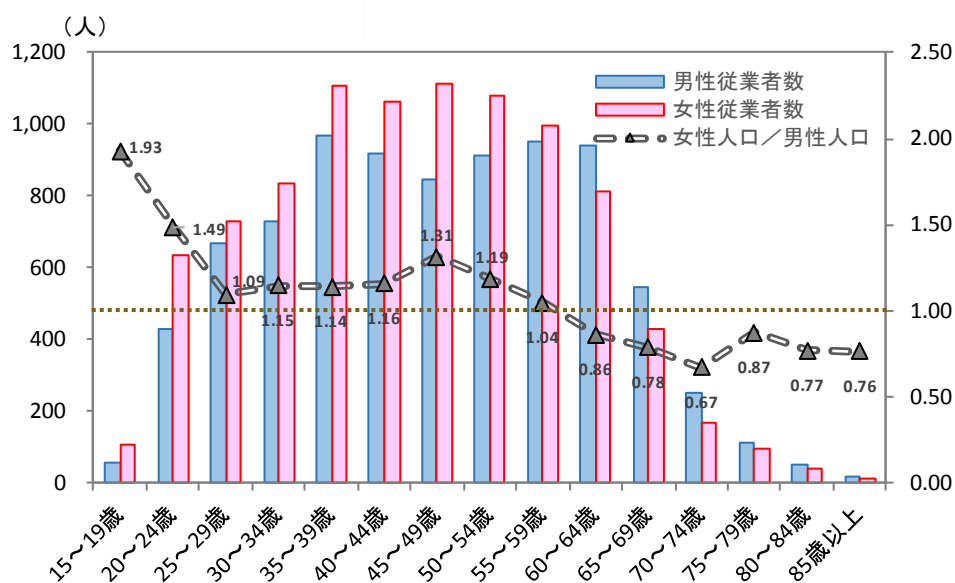


出典：2010年 国勢調査

2) 第3次産業における女性比率

第3次産業では10代～50代までの女性比率が1を超えており、女性従業者数が男性従業者数を上回っている。第3次産業が女性の雇用の受け皿になっている。

第3次産業における女性比率



出典：2010年 国勢調査

第4章 人口の将来推計

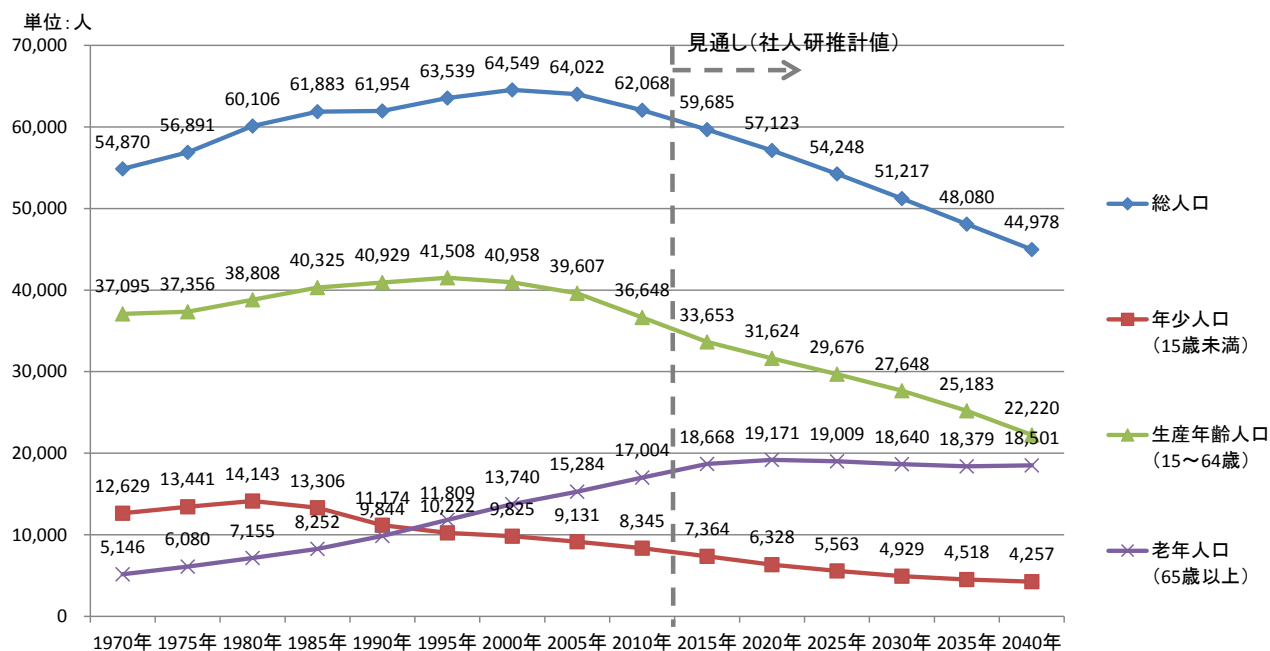
1. 社人研による将来人口の推計

(1) 対策がなされなかった場合の千曲市の将来人口

このままの状況が続いた場合、本市の人口は平成 52（2040）年には 44,978 人と 5 万人を大きく割り込むことが予測されている。人口 3 区分別の人口推移をみると、特に生産年齢人口の減少が大きく、年少人口も減少が続く。一方で、老年人口は平成 32（2020）年まで増加し、その後ほぼ横ばいとなる。つまり、老年人口はほぼ変わらない中で、生産年齢人口、年少人口が減少し、少子高齢化が進展することが予測される。

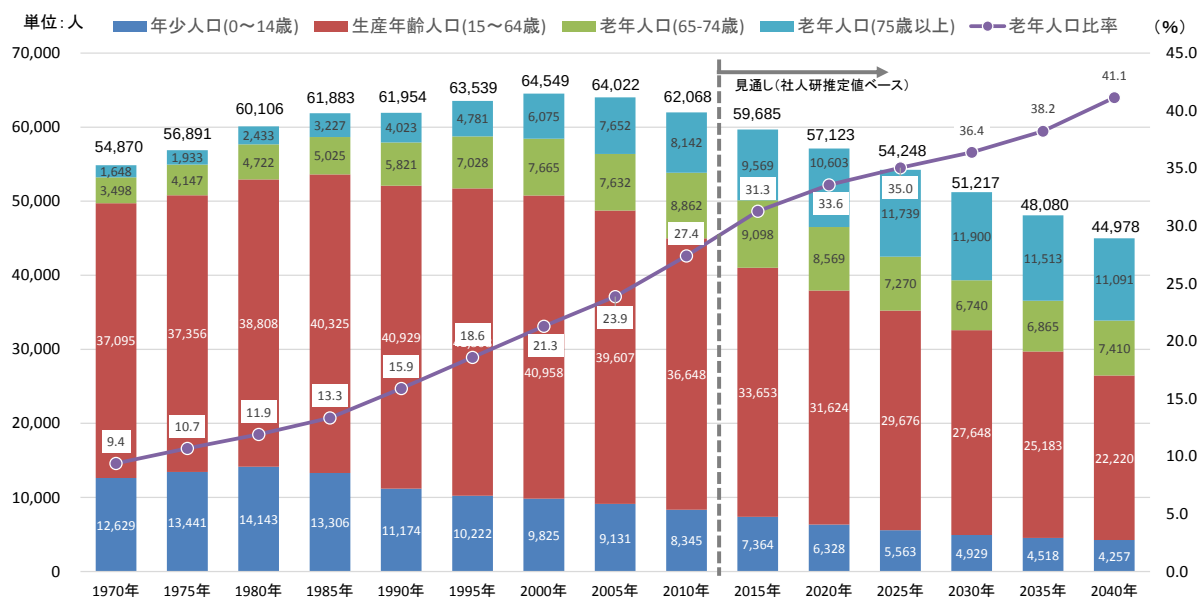
老年人口の内訳は、平成 27（2015）年から 65～74 歳人口よりも 75 歳以上人口が多くなり、平成 42（2030）年まで増加が続く見込である。老年人口比率は平成 27（2015）年には 30%を超え、平成 52（2040）年には 40%を突破すると推計される。

3 区分年齢人口の推移と将来推計



出典：2010 年までは総務省「国勢調査」。将来推計は社人研の「日本の地域別将来推計人口」

4 区分年齢人口と高齢化率の推移と将来推計



出典：2010年までは総務省「国勢調査」。将来推計は社人研の「日本の地域別将来推計人口」

(2) 人口減少の要因

社人研推計のもととなっている本市の将来の合計特殊出生率、出生数、死亡数、社会増減数をみると、合計特殊出生率は1.3台で推移する。しかし、子育て世代の人口が減少することにより出生数は減少すると予測される。一方、高齢化が進展し、死亡者数は増加していく。その結果、自然増減は5年ごとに約1,500人の減少から約2,900人にまで加速する。

社会移動は今後縮小されることが見込まれているが、社会減の傾向は今後も続き、5年ごとに約850人から約170人程度の減少が予測されている。

社人研推計における予測値

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計特殊出生率	1.39	1.36	1.34	1.34	1.34	1.34
出生数(人/5年)	2,107	1,819	1,587	1,475	1,410	1,326
死亡数(人/5年)	3,640	3,887	4,051	4,133	4,242	4,257
自然増減(人/5年)	-1,533	-2,068	-2,464	-2,657	-2,833	-2,930
社会増減(人/5年)	-850	-493	-415	-370	-305	-174

出典：社人研「日本の地域別将来推計人口」

2. 人口の減少が地域の将来に与える影響の考察

このまま人口減少が進んだ場合、地域社会に様々な影響が発生することが懸念される。

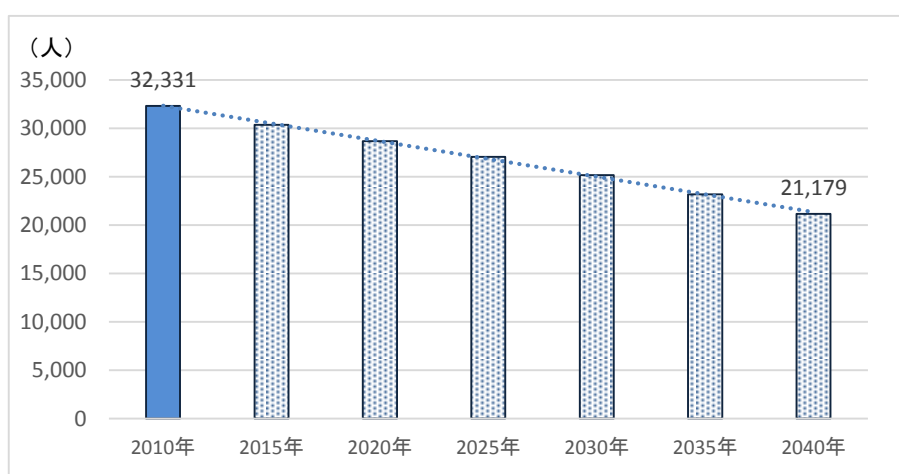
本節では、合計特殊出生率の変化、社会移動の変化が将来人口に及ぼす影響について、一定の仮定のもとで考察する。

(1) 労働力人口の減少

人口の減少により、地域に労働力（働き手）不足の問題が発生することが懸念される。

社人研の人口推計と国勢調査における本市の労働力率から労働力人口を推計した結果が以下である。これによると平成 22（2010）年に 32,331 人だった本市の労働力人口は、人口減少の影響を受けて、平成 52（2040）年には 21,179 人まで減少すると考えられる。

労働力人口の推計



出典：2010 年は国勢調査

2010 年の性別年代別労働力率と将来人口構造より労働力人口を算出

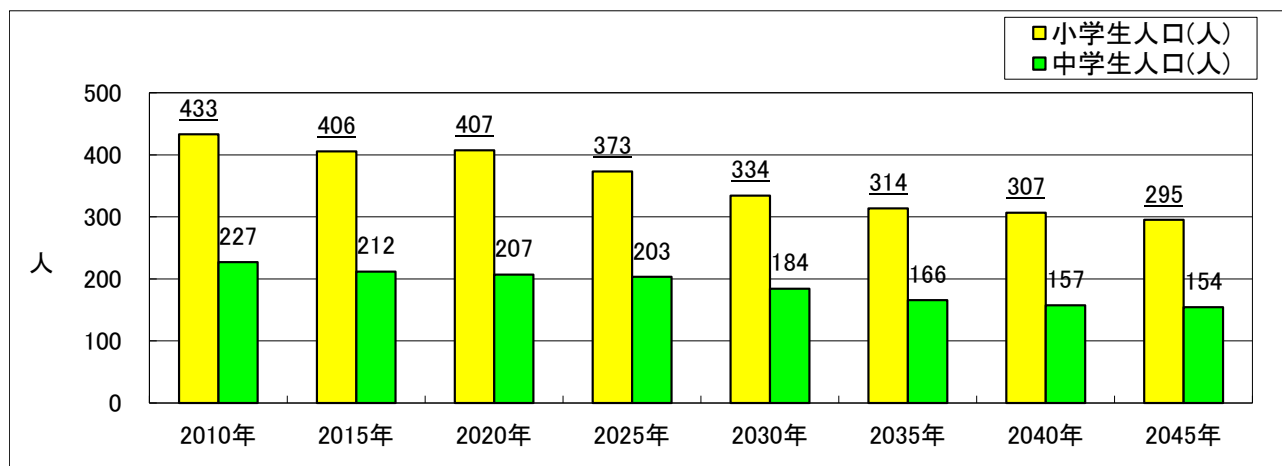
(2) 小中学校の学級数の減少

年少人口の減少によって懸念されるのが、小中学校等の児童・生徒数の減少である。市内でも地域によって人口減少が進む地域やあまり進まない地域が発生すると考えられる。このうち、人口減少が特に進む地域では、小中学校の学級数の減少等が予想される。

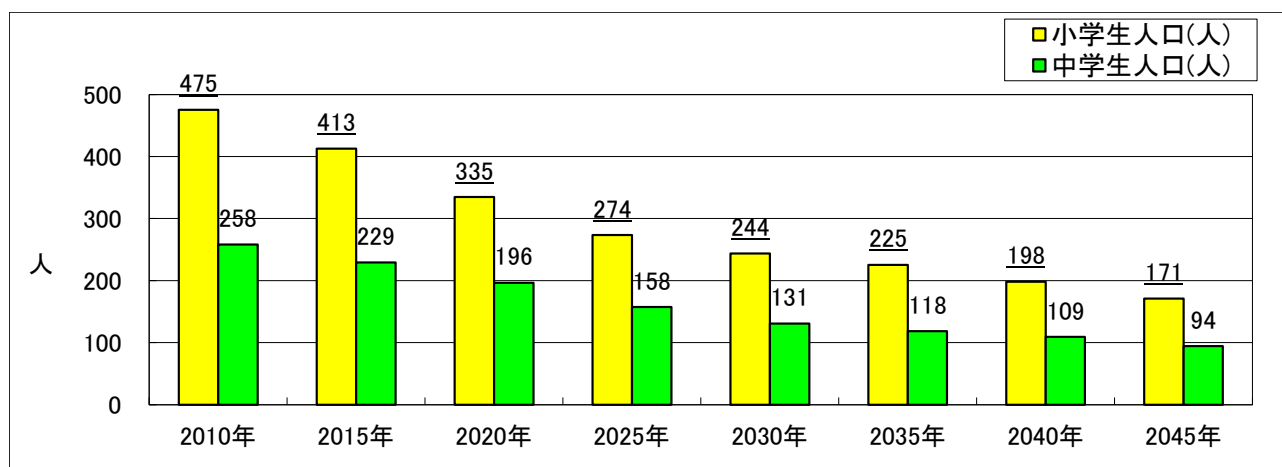
小中学生人口の推計（現行推移モデル）

※住民基本台帳の人口数をもとに、島根県中山間地研究センター提供の人口予測プログラムを利用した推計値

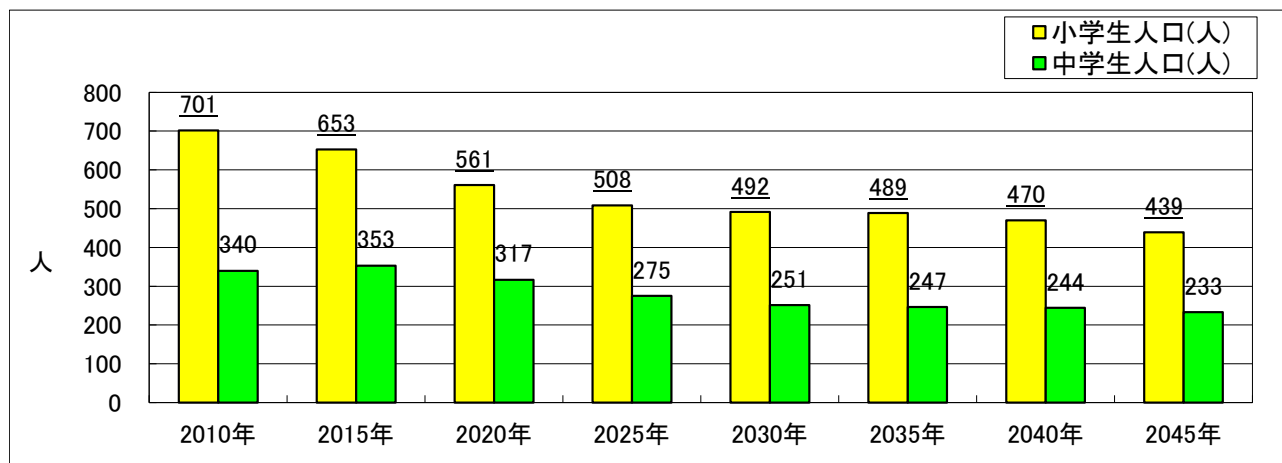
【屋代小学校区】



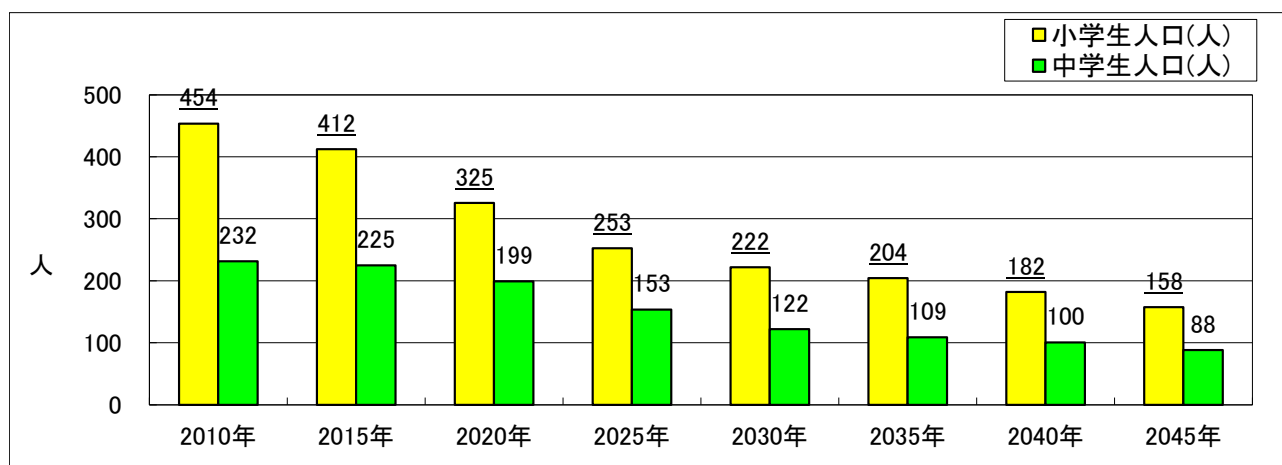
【東小学校区】



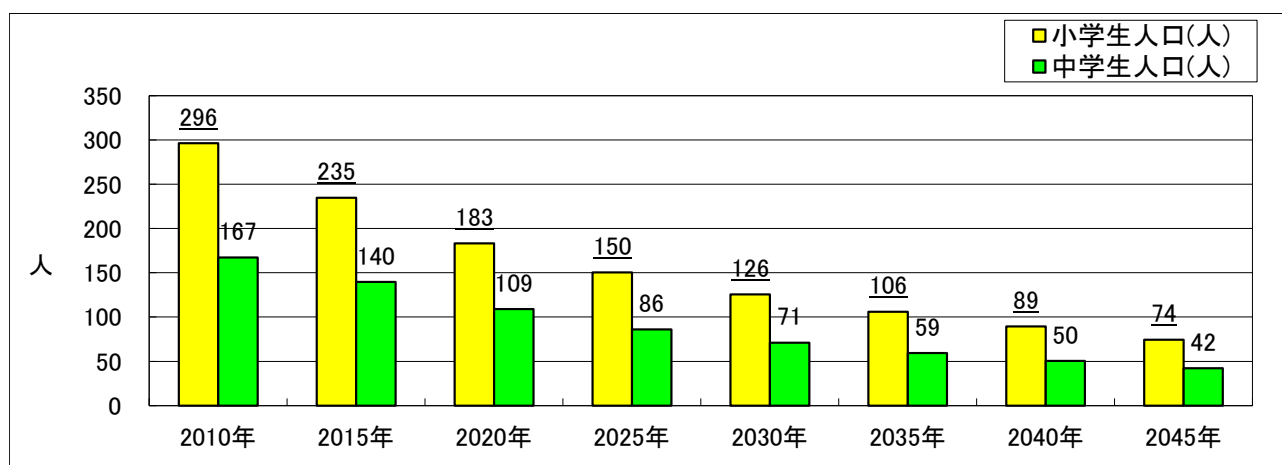
【埴生小学校区】



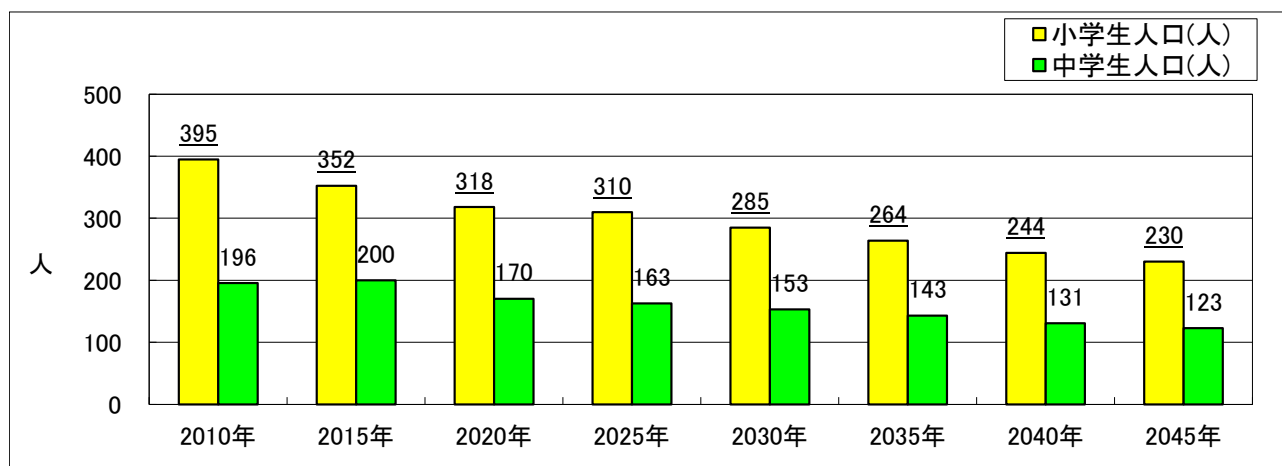
【治田小学校区】



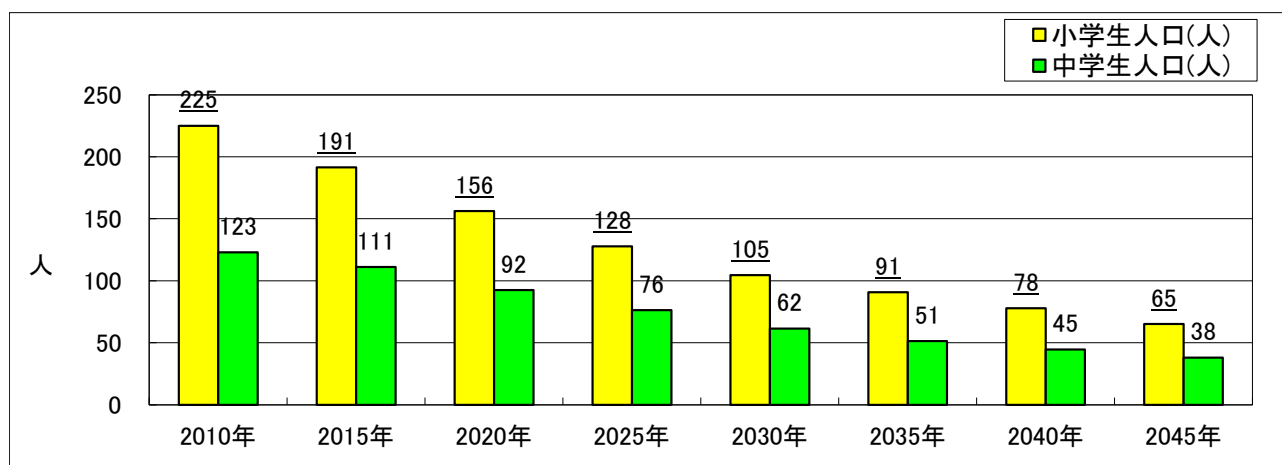
【八幡小学校区】



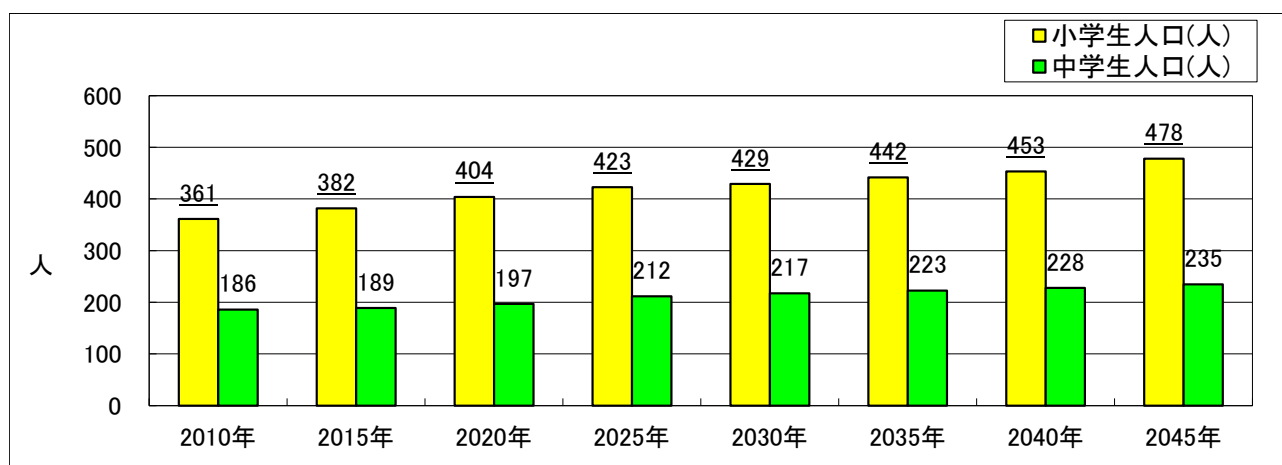
【戸倉小学校区】



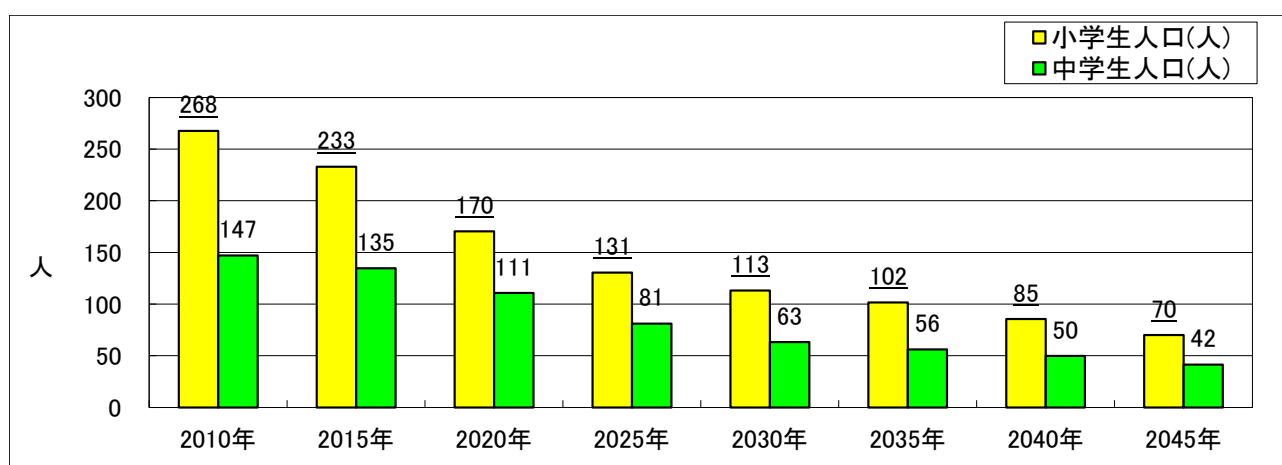
【更級小学校区】



【五加小学校区】



【上山田小学校区】



(3) 民間サービス施設の撤退

人口減少により、地域の経済規模が縮小することで、民間のサービス施設の立地にも影響が及ぶと考えられる。例えば、商業施設や医療施設、娯楽、文化施設等は一定以上の人口規模の都市でないと存続することが難しい。人口が減少することで、これらのサービス施設が維持できず、撤退する可能性がある。

(4) 財政規模の縮小

人口が減少することで、行政の財政規模にも影響が及ぶものと考えられる。例えば、市町村の標準財政規模は人口が多いほど大きくなる傾向がある。人口が減少することで、税収が下がり、財政規模も縮小することが懸念される。

第5章 千曲市人口の長期展望

社人研推計のとおり人口減少が進むことで、地域社会に様々な悪影響が発生することが懸念される。

そこで、人口減少と地域経済の縮小の悪循環を断ち切らなければならない。本市の人口の長期的な目標とそれを達成するための展望を示す。

1. 千曲市の人口の長期目標

本市が将来にわたり一定の都市機能と地域活力を維持するため、平成 52（2040）年の目標人口を 50,000 人とする。これは、社人研推計値（44,978 人）を約 5,000 人上回るものである。

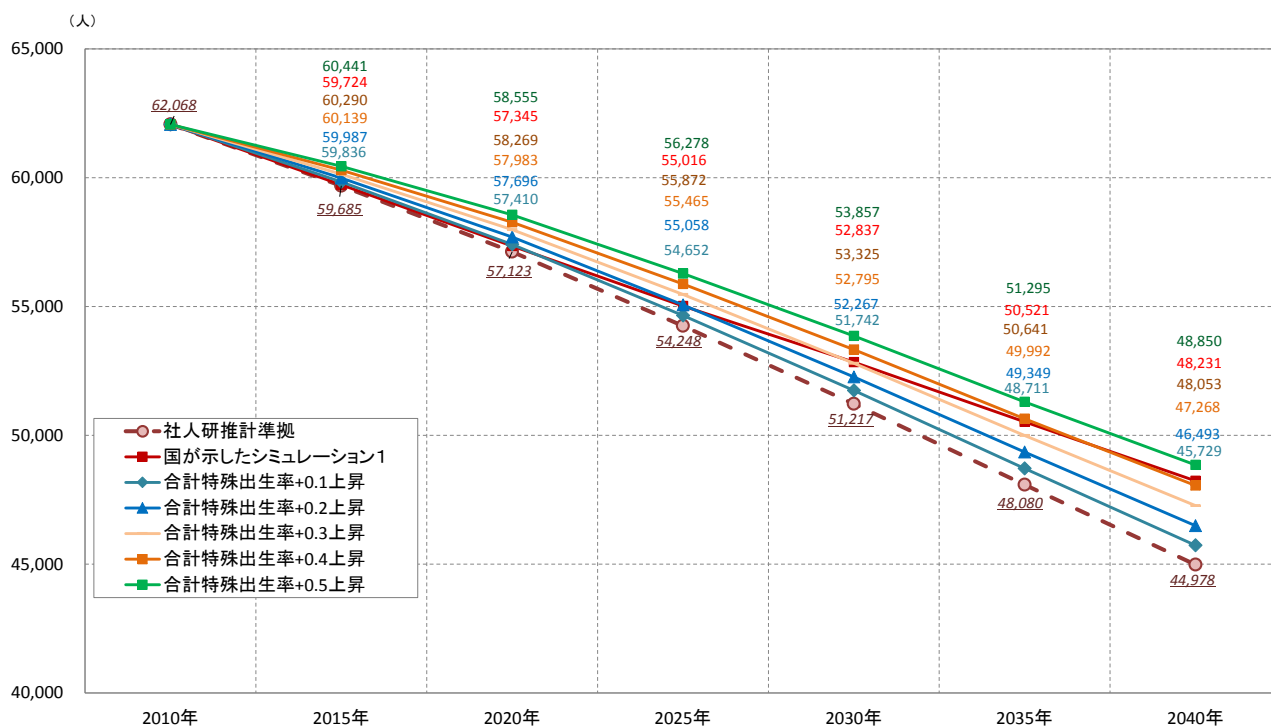
2040 年目標人口 50,000 人

2. 自然増における目標

(1) 合計特殊出生率の向上が人口に与える影響

社人研の推計をもとに、独自に合計特殊出生率が上昇した場合の人口の上昇を試算した。合計特殊出生率が 0.1 ポイント上昇すると、平成 52（2040）年の人口が 700 人以上上昇することがわかる。

出生率が向上した場合の 将来人口シミュレーション



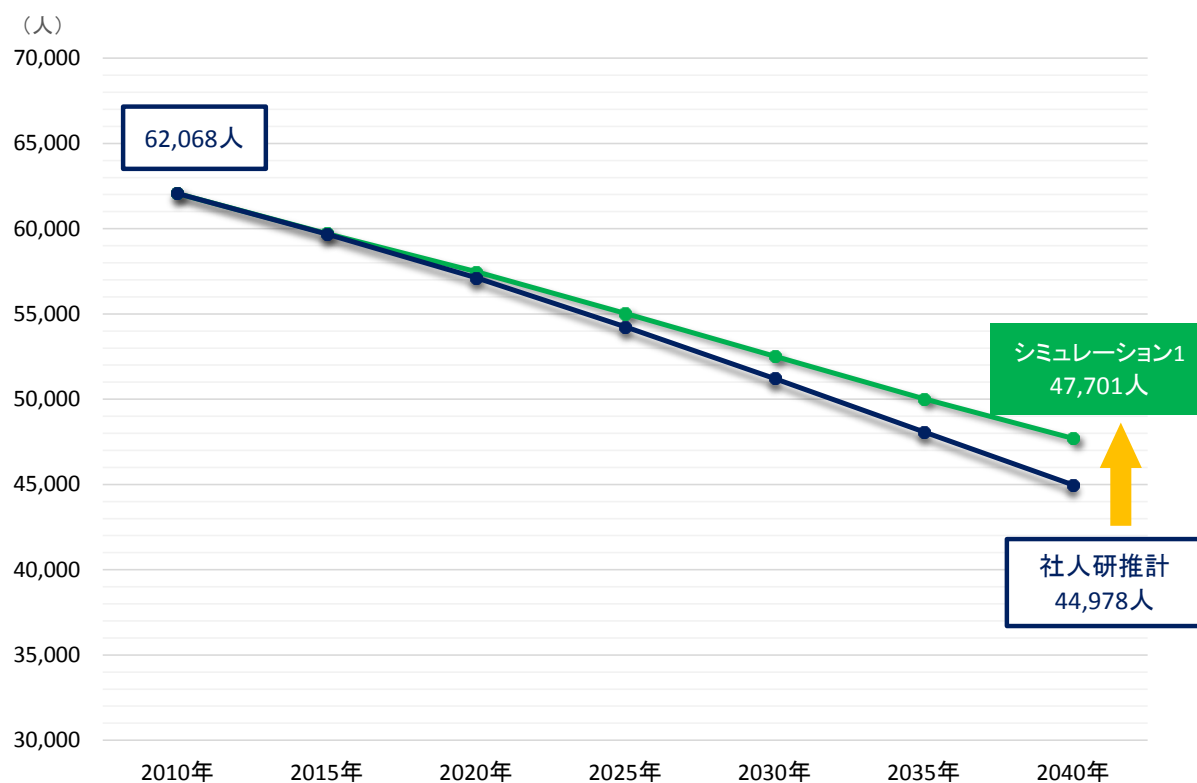
(2) 出生率上昇における目標

国の長期ビジョンでは、合計特殊出生率を平成 42（2030）年までに 1.8、平成 52（2040）年までに人口置換水準である 2.07 まで上昇するとしている。そこで、本市でも目標人口を達成するために、合計特殊出生率を国の長期ビジョンと同様の水準で上昇させる。このために、出会い、結婚、出産から子育てまでの一貫した支援を実施していく。

合計特殊出生率向上の目標値

	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
目標値	1.42	1.60	1.70	1.80	1.94	2.07
社人研推計値	1.39	1.36	1.34	1.34	1.34	1.34

合計特殊出生率が上昇した場合のシミュレーション
(シミュレーション 1)



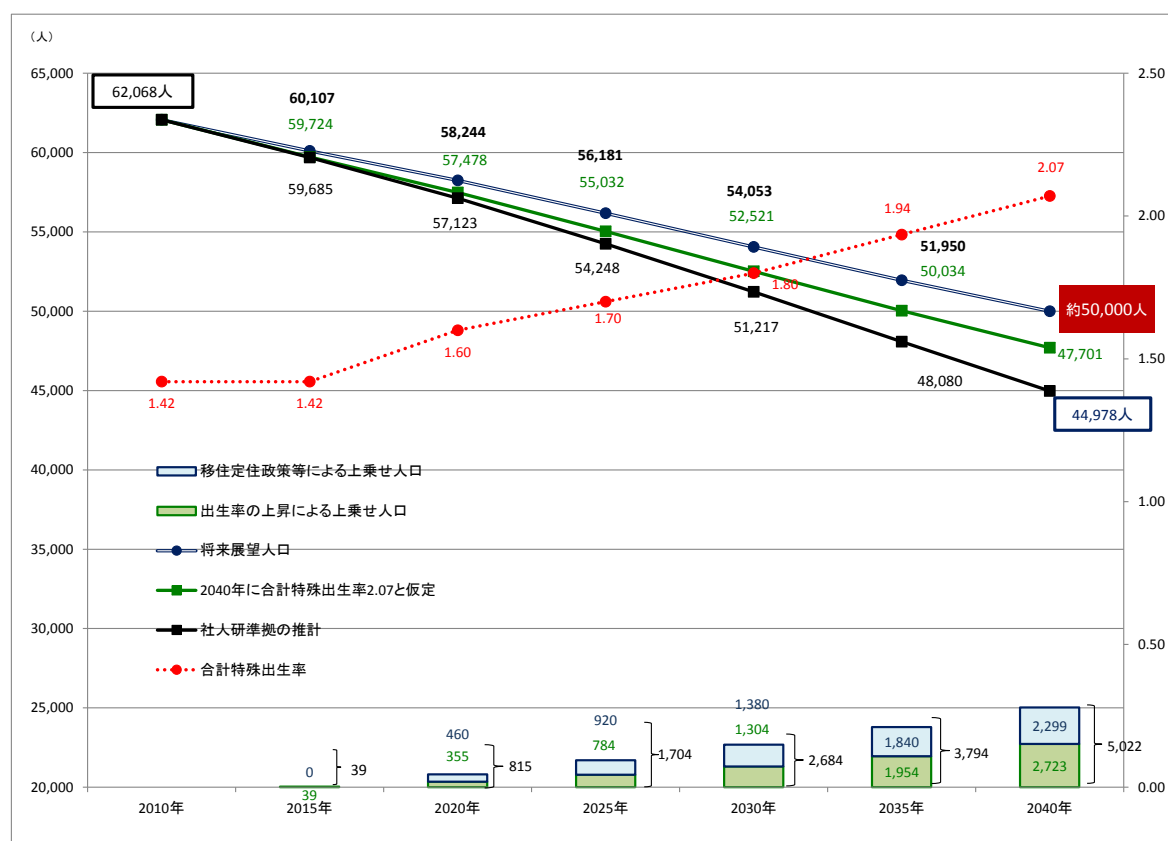
3. 自然増+社会増による目標人口

合計特殊出生率の上昇に加え、人口の政策的誘導を達成することで、平成 52（2040）年の目標人口 50,000 人を目指す。

目標人口を達成するための自然動態・社会動態における目標

	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	累計
社人研推計値(人)	59,685	57,123	54,248	51,217	48,080	44,978	－
合計特殊出生率	1.42	1.60	1.70	1.80	1.94	2.07	－
出生率の上昇による 上乗せ人口(人)	39	316	429	520	650	769	2,723
移住定住政策等による 上乗せ人口(人)	0	460	460	460	460	459	2,299
目標人口(人)	－	－	－	－	－	50,000	－

平成 52（2040）年目標人口を達成するための人口の将来展望



4. 目標人口を達成するために目指すべき方向性

平成 52（2040）年の目標人口 50,000 人を達成するために、本市が目指すべき将来の方向性を以下に示す。

本市における強みとは、豊かな自然に囲まれながらも長野市と上田市という中核都市に隣接し、買い物や生活の便利さが確保されている点にある。また、地域のコミュニティも機能している。

“ほどよい規模”で自然的要素と都市的要素が共存し、地域コミュニティの連帯が機能している都市であることが本市の強みであるといえる。一方で、「雇用・働く場」や「商店街や市街地のにぎわい」については課題がみられる。若い世代を惹きつけるには、働く場と都市としての魅力を創り出していく必要がある。

○安定した雇用を創出する

産業の担い手である企業が市外から資金をより多く獲得することが、地域経済の活性化と働く場の確保に直結する。また、獲得した資金が地域内で活発に取引され、地域内で循環させることで経済は活性化する。

本市の人口減少の大きな要因である若い世代の転出超過という課題を克服するため、外貨を獲得できる企業・人材を誘致するとともに、市内企業の競争力強化を支援する。また、あわせて経済の地域内循環を促すことで、若い世代を安定的に雇用できる地域の環境の形成を支援する。

○新しい人の流れをつくる

若い世代が U・I・J ターンするタイミングとして、大学卒業や就職、結婚・子育て等のライフステージの転換点がある。このような時期に若い世代から本市が選ばれるためには、働く場の創出に加えて、競合する他都市よりも優れた点や魅力を備え、それらの要素を伝えることが必要となる。

このため、千曲市の知名度を高めるためのプロモーションに注力するとともに、都市の魅力を磨きながら、若い世代との交流や本市への滞在機会を増加させることで接点を増加させ、移住・定住につながる新しい人の流れをつくる。

○若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

市外からの転入人口の獲得に加え、本市における出生率の向上を図ることも人口減少を抑制するうえで重要である。現在、本市の合計特殊出生率は 1.4 程度であるが、アンケート結果では、女性が理想とする子どもの数は平均 2.6 人であった。つまり、なんらかの原因で理想と現実の子どもの数にギャップがあると考えられる。

このため、結婚から出産、子育てまでをトータルに支援することで、より多くの市民が理想の数の子どもを産み・育てられる社会をつくる必要がある。

○時代に合った地域をつくり地域連携を進める

上記の施策を実施し、人口の自然増と社会増を促進しても、本市の人口構造を考慮すると、少子高齢化及び人口減少は避けられないと考えられる。

このため、若い世代の人口を確保する施策の展開にあわせて、少子高齢化と人口減少が進んでも、安心して暮らし続けられるような都市基盤の再構築を進める。

○健康寿命を延ばし高齢者の社会参加を高める

高齢化が進む今後の社会において、高齢者の健康と社会参加が地域社会に与える影響は大きいため、年齢を重ねても健康で生き生きと活躍できる社会の創出が必要である。

このため、市民一人ひとりの健康管理をサポートする仕組みをつくる。さらに、高齢者が生きがいを持って活躍できる機会の創出とマッチングを支援する。

以上の目指すべき方向性を踏まえ、千曲市総合戦略では次の 5 つの基本目標を設定した。

- ＜基本目標①＞ 安定した雇用を創出する
- ＜基本目標②＞ 新しい人の流れをつくる
- ＜基本目標③＞ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ＜基本目標④＞ 時代に合った地域をつくり地域連携を進める
- ＜基本目標⑤＞ 健康寿命を延ばし高齢者の社会参加を高める

〔参考〕 アンケート調査結果

ここでは、「結婚・出産・子育て」、「仕事」、「移住・定住」に関する意識を把握するため、満18歳～39歳の市民を対象に実施した調査、及び高校生をはじめとする15～17歳若年層の将来の進路や仕事に関する意識や希望を把握するために実施した調査の結果を報告する。

1. 市民アンケート調査

(1) 調査の概要

本調査の概要は、下記のとおり。

- ① 実施時期：平成27年6月26日（金）～7月13日（月）
- ② 調査対象者：市内在住の満18～39歳男女
- ③ 調査方式：郵送による配布・回収
- ④ 配布票数：2,000票
- ⑤ 有効回収票数：825票（有効回収率 41.3%）

(2) 調査結果

1) 独身者の結婚についての状況

独身者436人の状況を分析した結果、独身者の74.4%が「いずれ結婚したい」と回答している。「婚約者も交際相手もない」と回答した人は67.0%ときわめて高い比率であった。

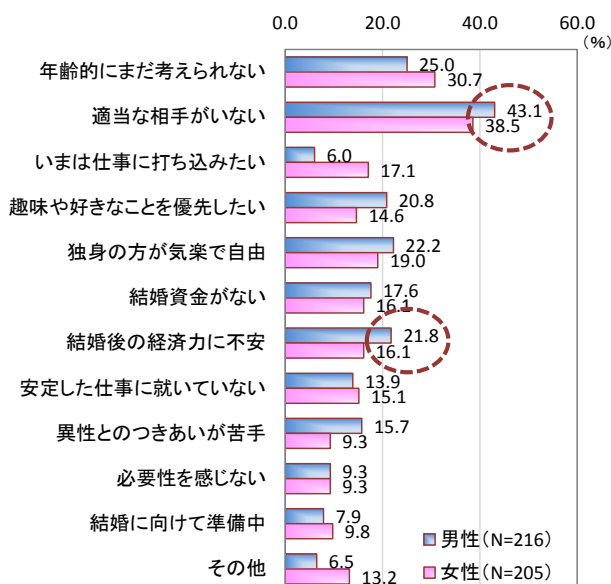
性別・年齢別に交際相手の有無をみると、男性は25～29歳以外のすべての年代で75%以上が「婚約者も交際相手もない」と回答し、女性では35～39歳の年代で75%以上になっている。

性別・年齢別交際相手の有無

			婚約者がいる	結婚を意識した交際相手がいる	結婚を意識していない交際相手がいる	婚約者も交際相手もない	その他	合計
男性	18・19歳	度数(人)	0	1	5	30	1	37
		割合(%)	0.0	2.7	13.5	81.1	2.7	100.0
	20～24歳	度数(人)	0	8	7	47	0	62
		割合(%)	0.0	12.9	11.3	75.8	0.0	100.0
	25～29歳	度数(人)	3	10	5	27	2	47
		割合(%)	6.4	21.3	10.6	57.4	4.3	100.0
	30～34歳	度数(人)	3	1	2	21	1	28
		割合(%)	10.7	3.6	7.1	75.0	3.6	100.0
	35～39歳	度数(人)	1	3	4	35	0	43
		割合(%)	2.3	7.0	9.3	81.4	0.0	100.0
	合計	度数(人)	7	23	23	160	4	217
		割合(%)	3.2	10.6	10.6	73.7	1.8	100.0
女性	18・19歳	度数(人)	0	6	3	15	0	24
		割合(%)	0.0	25.0	12.5	62.5	0.0	100.0
	20～24歳	度数(人)	1	15	12	42	1	71
		割合(%)	1.4	21.1	16.9	59.2	1.4	100.0
	25～29歳	度数(人)	4	19	1	31	0	55
		割合(%)	7.3	34.5	1.8	56.4	0.0	100.0
	30～34歳	度数(人)	2	8	4	17	1	32
		割合(%)	6.3	25.0	12.5	53.1	3.1	100.0
	35～39歳	度数(人)	0	2	2	18	1	23
		割合(%)	0.0	8.7	8.7	78.3	4.3	100.0
	合計	度数(人)	7	50	22	123	3	205
		割合(%)	3.4	24.4	10.7	60.0	1.5	100.0

結婚していない理由としては、全体では「適当な相手がいない」がもっとも多く 41.0%、次いで「独身の方が気楽で自由」が 20.6%であった。男女別に大きな格差がみられる項目はないが、「適当な相手がいない」については、男性がより深刻とみられ、「結婚後の経済力に不安」も男性が 5 ポイント以上高くなっている。

結婚していない理由



2) 出産についての状況

予定している子ども人数は男女ともに 2 人と回答する人が 6 割以上であった。一方、理想とする子ども数は男性で 2 人が最も多いのに対し、女性の 49% が 3 人と回答している。

女性回答者のみの平均をみると、予定子ども数が 2.06 人、理想とする子ども数が 2.62 人であり、理想と現実（予定）に差があることがわかった。

予定している子どもの数と理想とする子どもの数とその差

[予定している子どもの数]

	男性		女性	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	23	7.7	20	4.4
1人	29	9.7	46	10.1
2人	179	60.1	288	63.4
3人	62	20.8	92	20.3
4人	4	1.3	5	1.1
5人	1	0.3	3	0.7
合計	298	100.0	454	100.0

[理想とする子どもの数]

	男性		女性	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
0人	8	2.6	8	1.7
1人	10	3.2	14	3.0
2人	139	45.1	175	37.7
3人	127	41.2	229	49.4
4人	11	3.6	27	5.8
5人	8	2.6	10	2.2
6人	2	0.6	1	0.2
9人	1	0.3	0	0.0
10人	1	0.3	0	0.0
13人	1	0.3	0	0.0
合計	308	100.0	464	100.0

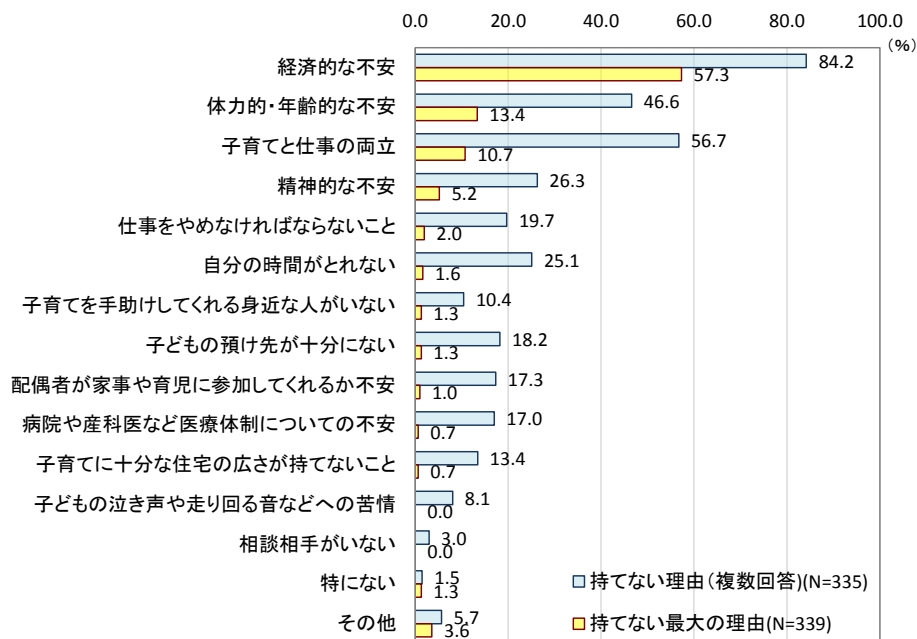
【女性回答者のみの平均】

予定している子どもの数：平均 2.06 人

理想とする子どもの数：平均 2.62 人

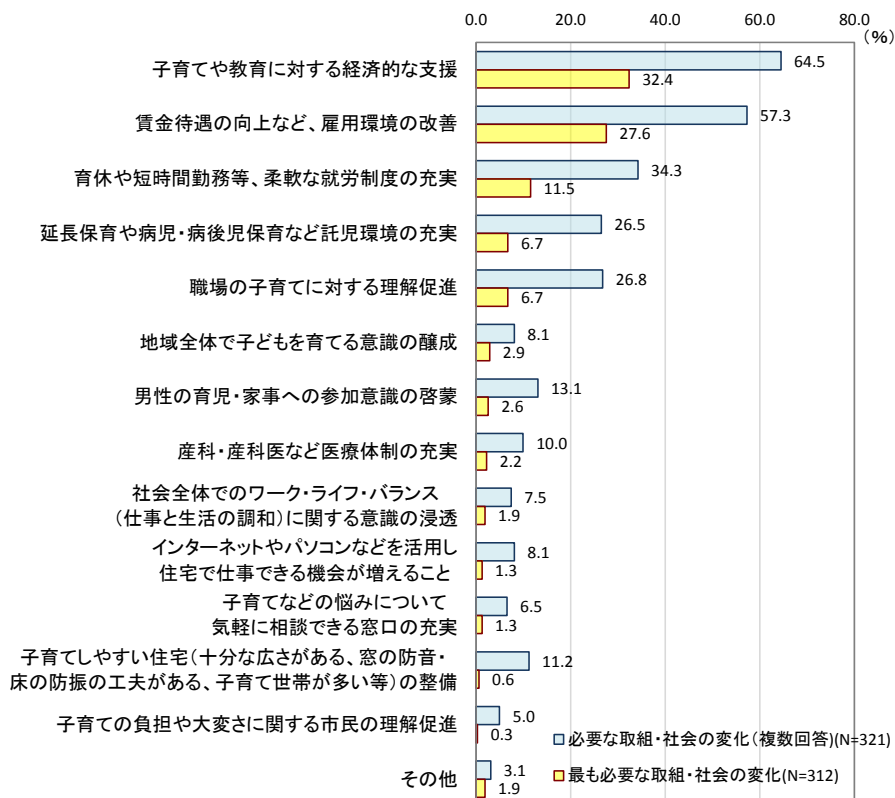
理想の子どもを持たない理由（複数回答）としては、「経済的な不安」「体力的・年齢的不安」「子育てと仕事の両立」「精神的な不安」があげられた。

理想とする子どもを持たない理由



理想の子ども数を持つために必要な取り組み・社会の変化としては、「子育てや教育に対する経済的な支援」、「賃金待遇の向上など雇用環境の改善」との回答数が多く、まずは経済支援や安定的な雇用への取り組みが求められている。

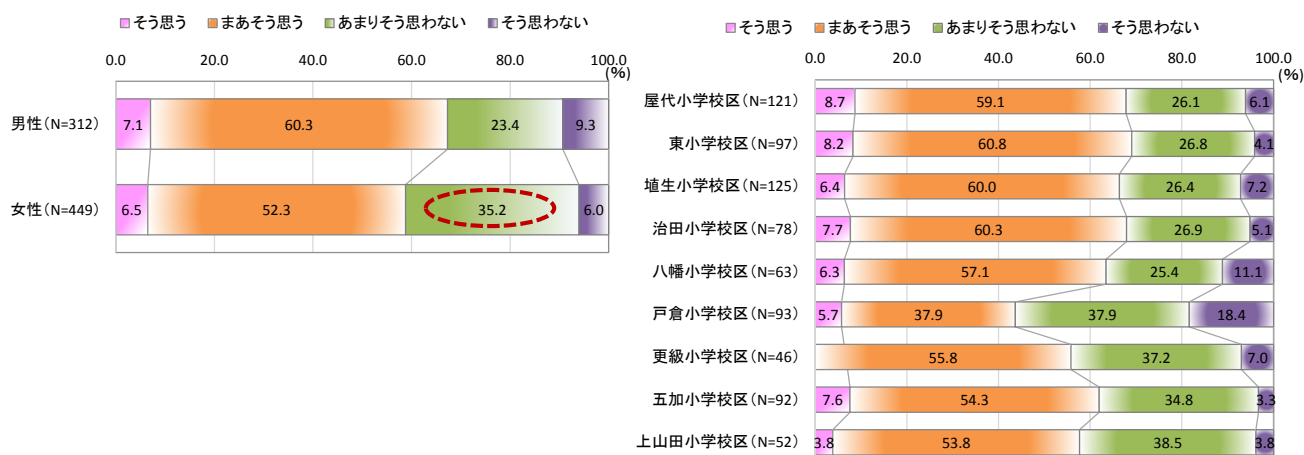
理想とする子ども数を持つために必要な取り組み・社会の変化



3) 子育て環境に対する評価

本市が子どもを産み育てやすいまちであると評価する人は6割強であり、4割弱は「そう思わない」と回答している。男女別にみると、女性の方が「あまりそう思わない」という回答が多く、評価が厳しくなっている。地区ごとでは、戸倉小学校区で唯一マイナス評価が過半数となっており、2割近い人が「そう思わない」と回答している。また、更級小学校区、上山田小学校区でもマイナス評価が4割を上回り比較的厳しい評価となっている。

子育てのしやすさに対する評価

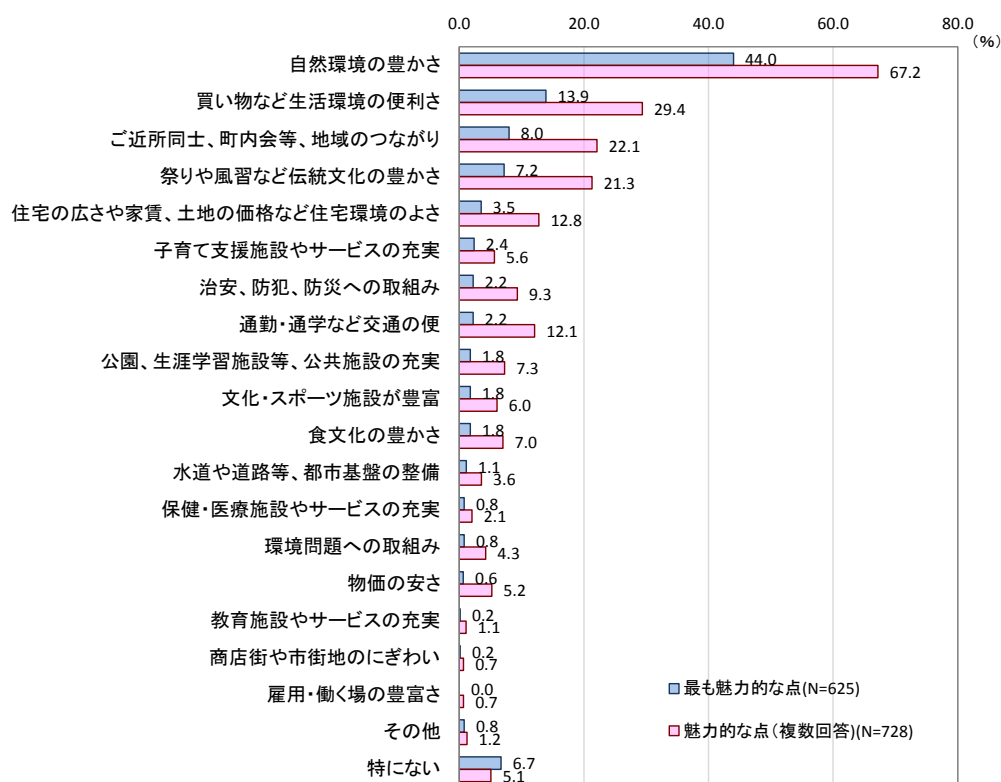


4) 千曲市の魅力と足りないところ

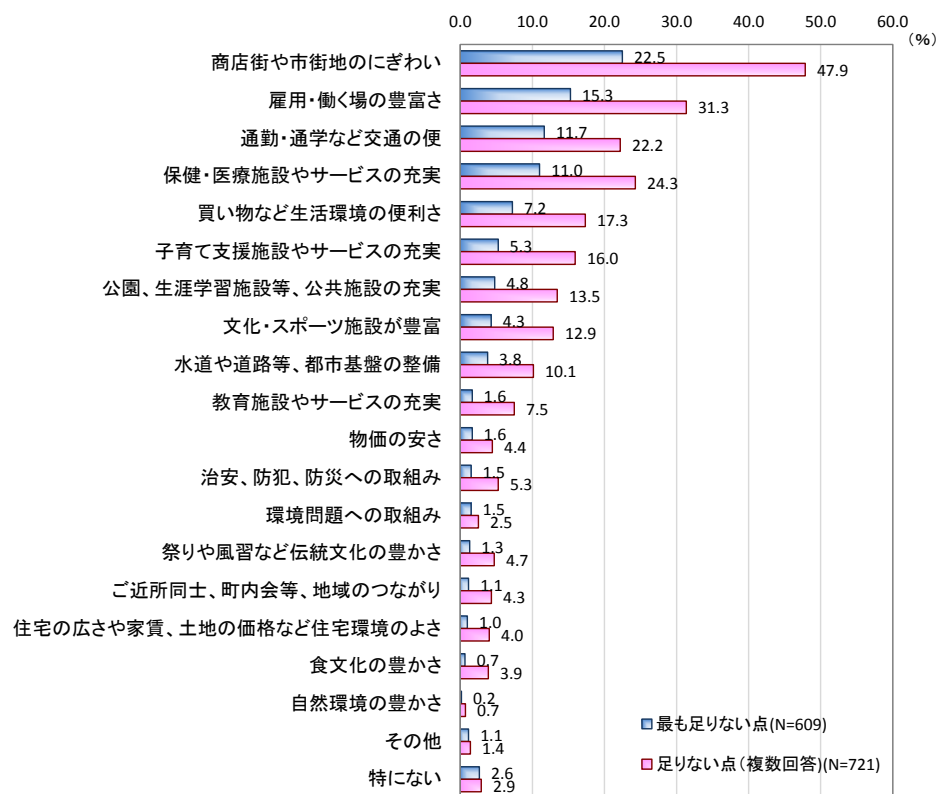
本市の魅力だと思う点としては、「自然環境の豊かさ」が突出し、次いで「買い物など生活環境の便利さ」「ご近所同士、町内会等、地域のつながり」が多くの人に評価されている。

一方、「商店街や市街地のにぎわい」「雇用・働く場」は足りないと思う点とされている。

千曲市の魅力だと思う点



千曲市に足りないと思う点



2. 高校生アンケート

(1) 調査の概要

本調査の概要は、下記のとおり。

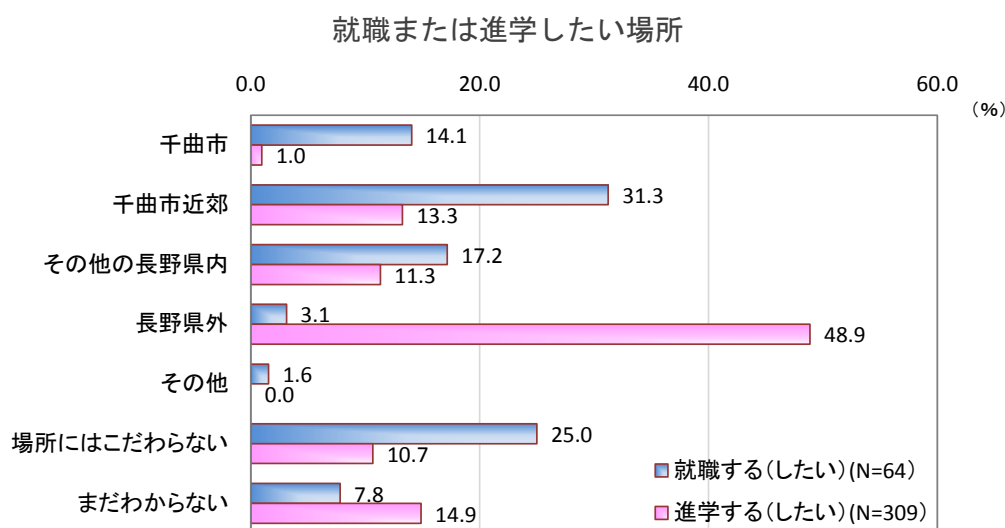
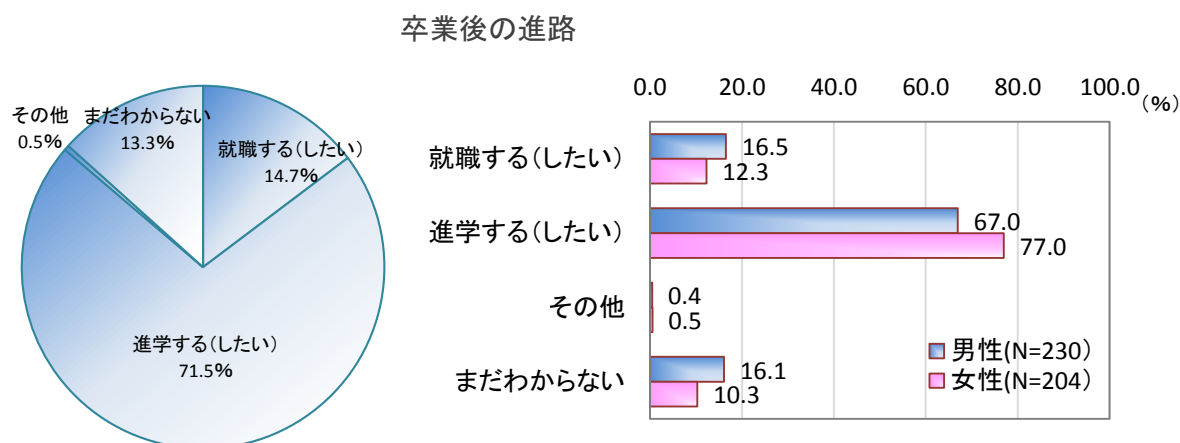
- ① 実施時期：平成27年6月26日（金）～7月13日（月）
- ② 調査対象者：市内在住の満15～17歳男女
- ③ 調査方式：郵送による配布・回収
- ④ 配布票数：1,000票
- ⑤ 有効回収票数：437票（有効回収率 43.7%）

(2) 調査結果

1) 進路の希望

今後の進路は進学を希望する人が7割強で最も多く、就職希望者は15%程度であった。男女別でみると、女性の方が進学希望率は10ポイント高くなっている。

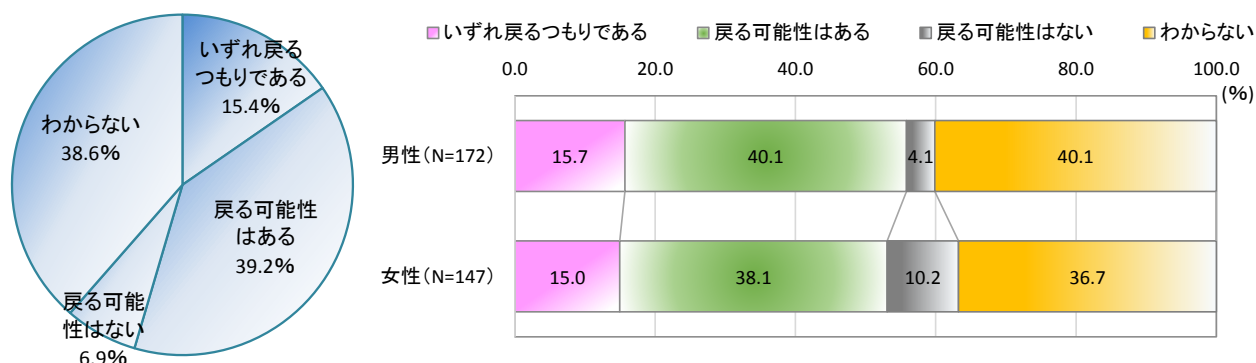
就職または進学したい場所は長野県外と回答した人が4割以上、千曲市と回答した人はわずか3%程度だった。進路別では、進学希望者の約半数が長野県外を希望、就職希望者の3割が千曲市近郊を就職場所として希望している。



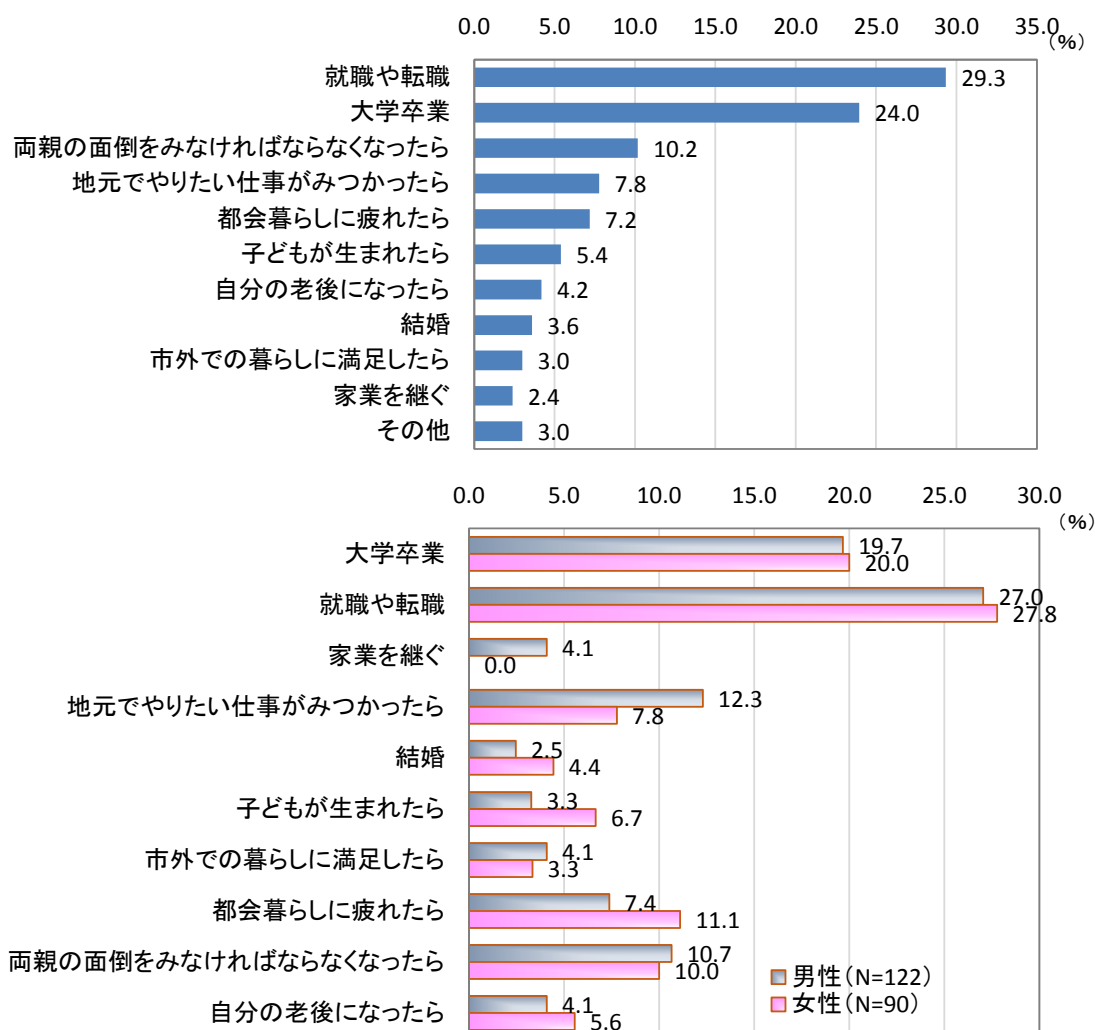
2) 将来のUターンについて

Uターン意向については「いずれ戻るつもり」が15.4%、「戻る可能性はある」が39.2%で、過半数がUターンの可能性がある。男女別では、女性の方が「戻る可能性はない」という回答が多い。Uターンのキッカケとしては、「就職・転職」が29.3%でもっとも多く、次いで「大学卒業」が24.0%であった。男女別比較では、男性で「地元でやりたい仕事が見つかったら」の比率が高い傾向がある。

将来Uターンの意向



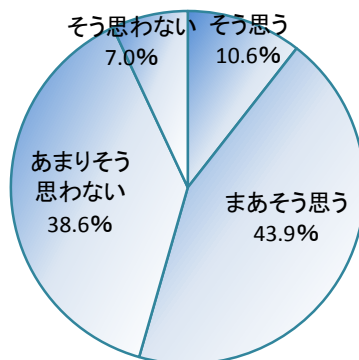
千曲市に戻るキッカケ



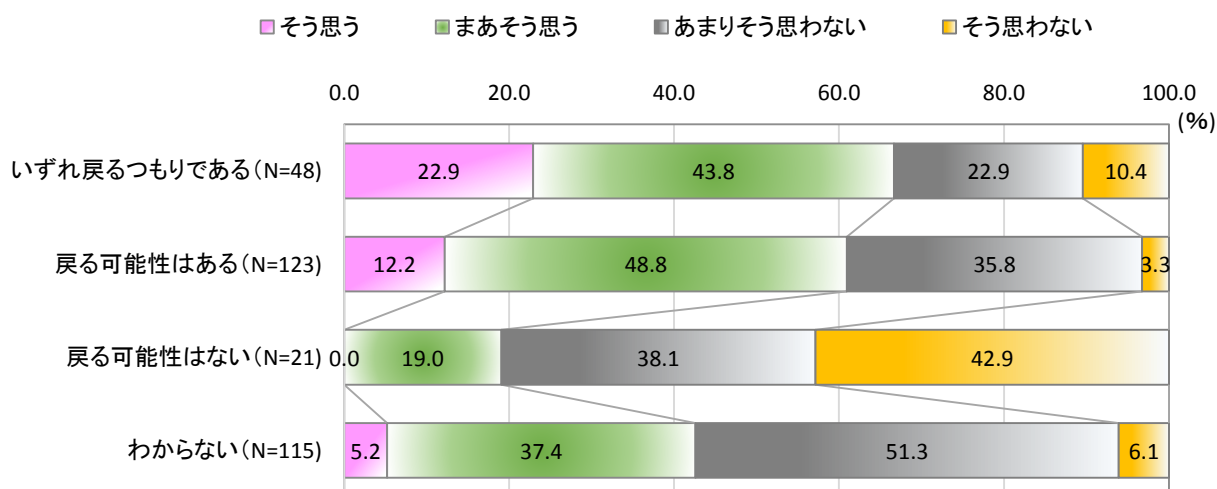
3) 働きやすさの評価について

千曲市は働きやすそうなまちかを聞いたところ「そう思う」という回答は 10.6%、「まあそう思う」が 43.9%で、あわせると過半数となった。将来の U ターン意向別にみると、働きやすいまちだと思う人の比率が「いずれ戻るつもりである」という人たちで高い傾向にあり、反対に「戻る可能性はない」という層では「そう思わない」が 42.9%となっている。働きやすさイメージが、将来の U ターン意向を大きく左右すると思われる。

千曲市は働きやすそうなまちか

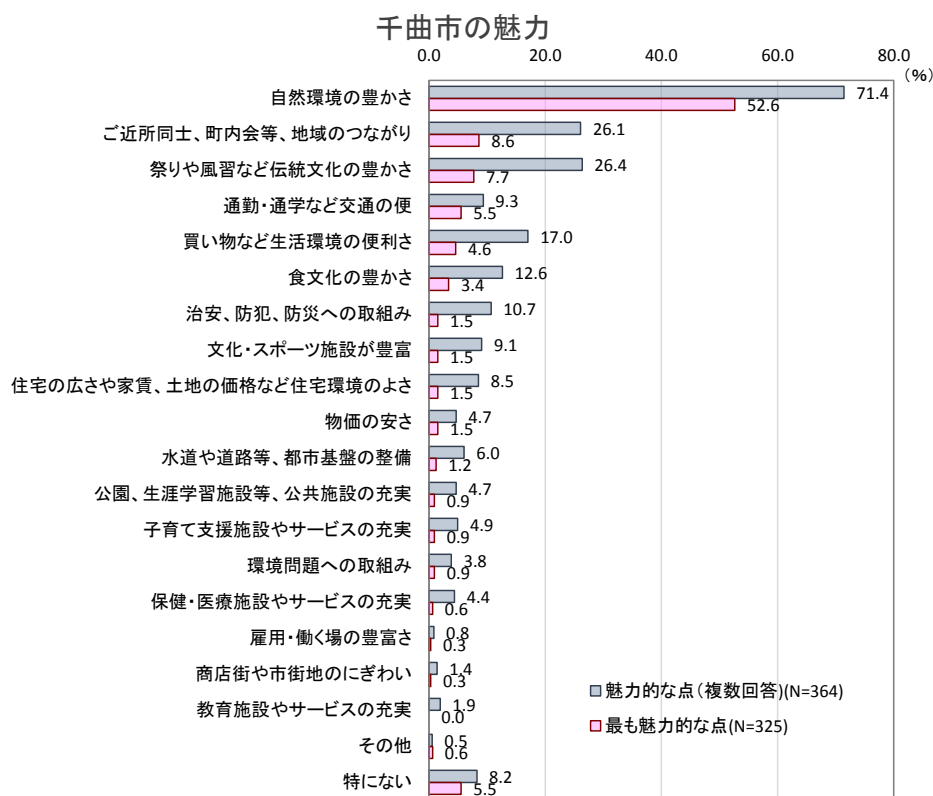


将来の U ターン意向別 千曲市は働きやすそうなまちか

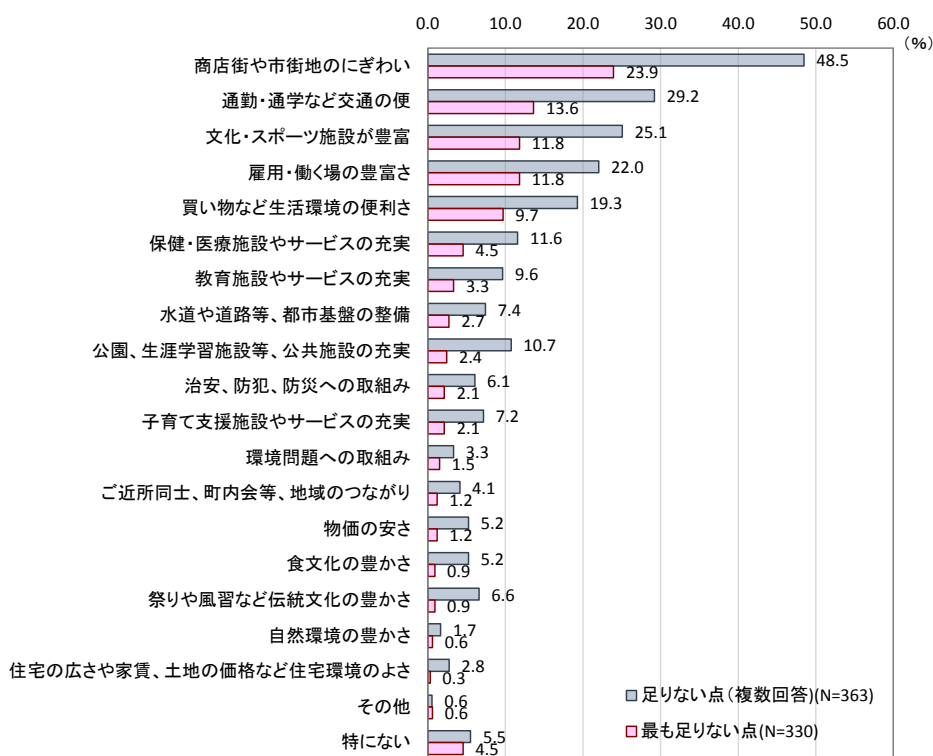


4) 千曲市の魅力と足りないところ

本市の魅力としては「自然環境の豊かさ」が突出し、次いで「地域のつながり」「伝統文化」の豊かさと続く。一方、本市に足りないところは、「商店街や市街地のにぎわい」が突出しており、にぎわいのなさへの指摘が大きい。その他、「通勤・通学など交通の便」「文化・スポーツ施設」「雇用・働く場」「生活環境の便利さ」が足りない点として上位にあがった。



千曲市に足りないところ

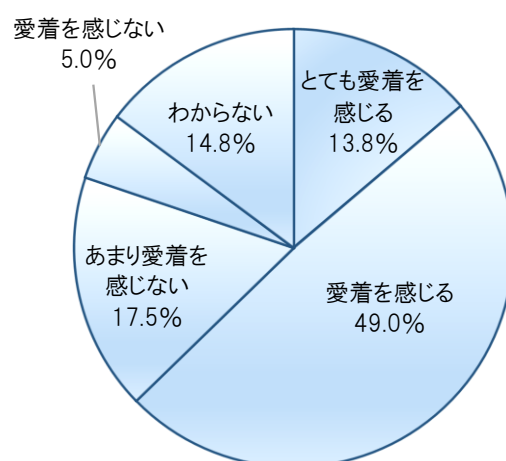


3. 千曲市への愛着度

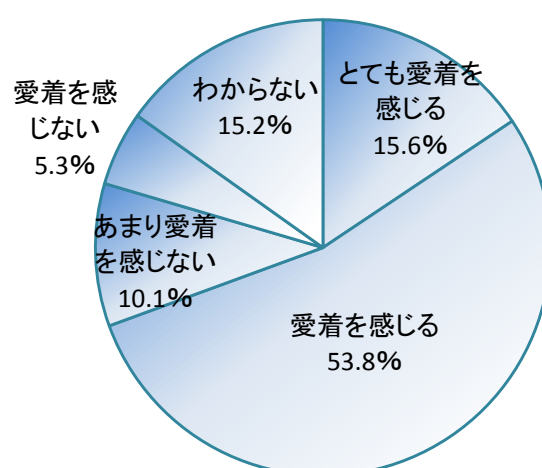
2つの調査で千曲市への愛着度を聞いている。どちらの調査でも「とても愛着を感じる」「愛着を感じる」をあわせた比率は6割を超えている。

千曲市への愛着度

【市民アンケート結果】



【高校生アンケート結果】



千曲市人口ビジョン

初版 平成 28 年 2 月発行

——編集・発行——

千曲市次世代支援部地域活力創造課

〒389-0892 長野県千曲市大字戸倉 2388

TEL:026-275-0004 / FAX:026-275-0238

E-mail: chikatsu@city.chikuma.nagano.jp

千曲市ホームページ: <http://www.city.chikuma.lg.jp/>
